

平 成 2 9 年 度

事 業 報 告 書

(事業報告 ・ 附属明細書)

自：平成29年 4月 1日

至：平成30年 3月31日

社会福祉法人 つどいの家

目 次

I	法人経営に関する事項	1
	1. はじめに／理事長総括	1
	2. 経営ビジョン実現に向けての取り組みと評価	1
	3. 財務状況・財産状況	3
	4. 広報・啓発活動に対する取り組み	3
	5. その他の法人経営に関する取り組み	4
II	法人の現況に関する事項	6
	1. 法人概要	6
	2. 役員・評議員等の状況	8
	3. 理事会開催の状況	9
	4. 評議員会開催の状況	11
	5. 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況	11
	6. 監査等の状況	13
	7. 運営事業の状況及び事業利用者の推移	14
	8. 地域における公益的な取組の状況	14
	9. 職員の状況	14
III	事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）	17
	1. 仙台つどいの家	17
	2. つどいの家・コペル	20
	3. つどいの家・アプリ	23
	4. 八木山つどいの家	26
	5. 若林障害者福祉センター（生活介護等）	29
	6. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」	32
	7. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」	35
	8. 地域生活サポートセンター「ピボット若林」	37
	9. グループホーム（共同生活援助事業）	41
IV	参考資料	44
	1. 利用実績（日中活動・地域生活・居住支援 各部門）	45
	2. 寄附金受領状況	64
	3. 補助金・助成金受領状況	67

I 平成29年度 法人経営に関する事項

1. はじめに / 理事長総括

平成29年度は、法人設立25周年でもあり、歩いてきた道を振り返るいい機会であった。誰でもが、地域で暮らすことが保障されるべきだという人権尊重の理念を掲げ、必要な資源を作り続けて25年、この間基礎構造改革から始まり、支援費制度、自立支援法、総合福祉法と制度が次々変わる激動の日々を乗り越えられたのは、半世紀前も前からの、母親たちの怒りや、悲しみから立ちあがった草の根運動の原点があったからである。

また、疾走した法人25年の歩みは輝かしくもあり、奇跡であったかもしれない。満足ではないが、国や自治体の手厚い保護があったから、できたことかもしれないのだ。

国は、財政難の中、少子高齢化による社会保障費の伸びを抑えるために、一人当たりの年金や給付費を下げることで凌いでいる。そして、社会福祉法人制度改革では、社会福祉法人は自立した経営をするようにと迫っている。共生社会の実現に努力せよというのだ。勿論、共生社会の実現こそが、社会福祉法人の目指すべき目標であると考え、努力を続けてきた。しかし、それだけの体力もないままに、競争社会に投げ出されそう。前途が見えない状態である。自立した経営は難しいが、突き進むしかない。

従って、当法人としても制度改革に向かったの基盤整備をすすめてきた。しかし、内部統制組織改革や、事業継続に必要な体制維持、修繕や職員確保のために積立資金の大半をつぎ込まざるを得なかった。赤字会計である。老朽施設（コペルのボイラー）の修繕もあり借金もしなければならない。利用者にとって必要な資源の創設は先延ばしだ。今、緊急に必要なのは資金である。

思えば、社会福祉法人事業の特典は、税制上の優遇措置であるが、寄付金収入の課税額が割引されることや、寄付者も確定申告によって所得税法上の寄付金控除を受けられる制度を十分に活用しきれていなかった。社会福祉法人の理念は、寄付社会（共生社会）をつくることある。地域の方々にしょうがいのある人への理解を得る啓発活動はしても、もう一つ踏み込んで市民や企業の方々に、資金面での援助を求める努力が足りなかった。寄付社会の醸成に努力しなければならないと、反省している。

一方で 行政に働きかけ、当事者の声を届けること、要望活動をすることも大切である。役員、職員、消費者（本人、家族）が、一丸となって取り組んでほしい。共生社会づくりは簡単ではない。

2. 経営ビジョン実現に向けての取り組みと評価

経営ビジョン 1 しょうがいのある人の差別をなくし、地域生活に必要な資源を生み出す

- 本人の意思を無視することは差別であることの認識で意思決定支援に力をいれている。
- 権利擁護、虐待防止委員会が虐待防止ガイドライン運用と意識向上につとめている。
- ニーズ調査で、グループホーム入居希望者を把握できたが、資金調達と人材確保の目途が立たず、新しいホームの立ち上げは見送った。当面、法人の基盤整備に力を入れる。

経営ビジョン 2 地域社会の支援を受け、参画を促し、法人で培ったものを還元する福祉の街づくり、共生社会の実現をめざす

- ホームページのリニューアルで、求職者が覗くようになり若者の関心がふえた。
- 法人広報「つどい」発行2回。寄付の呼びかけに応えてくれる人がでてきた。
- 障がい理解のための啓発活動として上映会実施。（given ここにある、しあわせ）
- 法人設立25周年記念行事で、たくさんの客を迎え、アピールした。

経営ビジョン 3 地域の人や利用者をはじめ社会に信用され、選ばれる存在であり続ける

- コンプライアンス遵守のために、法規に沿って各種規程を見直し再整備した。
- 防災マニュアルを見直しを進めている。定期的な防災訓練実施で、利用者や近隣の人々の安心安全を目指している。
- 苦情解決委員会の開催により、利用者や、近隣の方の苦情に真摯に対応している。
- 職員の専門性を高めるために資格取得の奨励に努め、研修に力を入れている。
- リスクマネジメントとして、各種保険の見直しをして、役員保険に新規加入した。
- 衛生委員会開催などで、職場環境の見直しなどを計っている。

経営ビジョン 4 経営基盤をゆるぎないものにする

- 財務基盤の確立にむけて
制度を熟知し活用することで、補助金や加算を受けること、そして、コスト削減のために雇用形態別の業務量を把握し、常勤・非常勤職員の適正な配置を図ることで、人件費削減を目指しているが、単年では、難しい。数年かけて取り組みたい。
- 支出は抑えることができなかったが、法人設立25周年記念行事や、法人会報で寄付の呼びかけを行い、寄付金収入は増えた。後援会員増口運動は、頭打ちである。
- 企業のCSR活動との連携の模索
取引企業を中心に呼びかけたら、25周年記念行事の協賛をいただけた。(32社)
- 国の改革を受けて、ガバナンス強化のための組織改革を行ったが、執行機関である理事会・監事、決定機関である評議員会、起案をあげる経営会議、地域生活諮問委員会、等の役割分担がはっきりと機能させたいが、まだなじんでいない。
- 法人本部事務体制の環境改善、ピボット若林のレスパイト事業の環境改善、グループホームの管理センターの創設など、課題はたくさんあるが、資金、人材、土地建物の確保が出来なければ実現できない。これらの基盤を確立することで、次なる、資源・グループホームなどの運営を進める力となっていく。

経営ビジョン 5 職員も仕事を通じて自己実現ができる環境をつくる

- 人材育成に力を入れる。
職員研修委員会を中心に夕方の時間を使って企画実施している。非常勤職員には法人設立記念日を利用者の休日として、研修日を設けて職員たちには喜ばれているが、減収になるので、工夫が必要だ。
- 「資格取得奨励金」及び「資格手当」を創設したが、挑戦する人が僅かである。危機感がなく、資格がなくてもやれると思っている。何らかのさらなる奨励をしなければ、意欲は育たないのだろうか。
- 対話のある楽しい職場づくり
研修会では、小集団による座談会形式の自由な話し合いの場を設けている。事業者間の交流もあり、楽しみにしているようだ。夜行う忘年会や、歓送迎会などは、子育て中で出られない人が多い。勤務時間中はみんな余裕がなく、対話の時間がとりにくい。
- 産休、育児休業、介護休業制度をフルに活用していて、子育て世代の退職者はいない。

3. 財務状況・財産状況

(1) 財務状況の推移

(単位：千円)

勘定科目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	前年度比
サービス活動収益(1)	809,003	757,794	720,994	6.8 %
サービス活動費用(2)	837,555	803,514	760,976	4.2 %
サービス活動増減差額(3=1-2)	△ 28,551	△ 45,720	△ 39,982	－ %
サービス活動外増減差額(4)	12,528	12,261	13,151	2.2 %
経常増減差額(5=3+4)	△ 16,023	△ 33,459	△ 26,831	－ %
特別増減差額(6)	12,746	15,966	13,329	△20.2 %
当期活動増減差額(7=5+6)	△ 3,277	△ 17,493	△ 13,502	－ %

(2) 資産・負債等の推移

(単位：千円)

勘定科目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	前年度比
資産合計	1,212,352	1,247,005	1,299,339	△ 2.8 %
負債合計	187,078	186,534	189,124	0.3 %
純資産合計	1,025,275	1,060,471	1,110,215	△ 3.3 %

(3) 借入金の状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

借入先	借入使途	元金残高(千円)
独立行政法人 福祉医療機構	コペル建設資金	2,880
独立行政法人 福祉医療機構	ひかりはうす(GH)不動産取得・改修資金	7,553
独立行政法人 福祉医療機構	アプリ土地取得・建設資金	53,628
独立行政法人 福祉医療機構	さくらはうす(GH)災害復旧資金	589
独立行政法人 福祉医療機構	仙台つどいの家災害復旧資金	38,160
宮城第一信用金庫	ひこうき雲(GH)土地取得資金	51
(借入金 合計)		102,861

※平成 29 年度新規借入額：なし

(前年度より 12,194 千円減)

(4) 補助金・寄附金等の状況

(単位：千円)

補助種別	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	前年度比
事業運営費	92,354	99,384	101,438	△ 7.1 %
人件費(職員加配)	33,164	37,718	41,318	△ 12.1 %
施設設備整備等	7,791	8,779	1,410	△ 11.3 %
その他	47	395	324	△ 88.1 %
寄附金	23,051	20,096	18,493	14.7 %

4. 広報・啓発活動に関する取り組み

(1) 法人広報誌発行

広報誌「つどい」第 24 号 平成 29 年 8 月 31 日発行(発行部数：1,300 部)

同 第 25 号 平成 30 年 3 月 1 日発行(発行部数：1,100 部)

(2) ホームページによる情報開示

社会福祉法並びに法人定款に規定する福祉サービスの質の向上と事業経営の透明性の確保を図るため、法人の現況報告書や財務諸表等の情報をホームページ上で開示するのみならず、スマートフォンの普及に伴い、Web媒体を通して、外部からの共感や様々な支援を得ること、または求職者の裾野を広げ、人材確保に繋げることを目的に法人及び事業運営に係る取り組みを積極的に発信しました。

※ホームページ内「ブログ機能」を活用した情報発信件数：95件

(3) 啓発活動

しょうがいのある方の人権と差別のない社会の構築を目指す法人の基本理念に従い、社会への啓発活動の一環として以下の上映会を開催（つどいの家後援会との共催）しました。

内 容 ドキュメンタリー映画「given〜いま、ここ、にある しあわせ〜」の上映
日 時 平成29年10月26日（木） ※2回上映
場 所 宮城野区文化センター シアターホール
入場者数 129名

5. その他の法人経営に関する取り組み

(1) 福祉サービス等における苦情対応など

【苦情解決委員会実施状況】

日 時	協議内容	出席者数
第1回 H29.11.6（月）	平成29年度上半期（4～9月）における苦情受付内容 および解決に至った経過検証など	第三者委員 3名／3名 受付担当者 8名／9名 解決責任者 7名／8名
第2回 H30.3.14（水）	平成29年度下半期（10～3月）における苦情受付内容 および解決に至った経過検証など	第三者委員 3名／3名 受付担当者 4名／9名 解決責任者 6名／8名

【苦情対応の状況】

事業所名	主たる内容	解決有無
仙台つどいの家	車両の駐停車場所に対する苦情／近隣	解決済
つどいの家・コペル	職員の車の運転に対する苦情／近隣	解決済
	連絡事項の伝え漏れに対する苦情／家族	解決済
	ゴミの捨て方に対する苦情／近隣	解決済
	利用者対応に対する苦情／家族	解決済
	チラシ配布の際、門扉を閉めなかったことに対する苦情／近隣	解決済
	公用車の運転に対する苦情／近隣	解決済
	古いコペル通信を配布したことに対する苦情／近隣	解決済
	利用者の日中の様子の伝達方法に対する苦情／家族	解決済
八木山つどいの家	後援会費の納入袋配付時の説明不足に対する苦情／家族	解決済
	音楽イベント（屋外ライブ）の騒音に対する苦情／近隣	解決済
	支援体制や、職員の支援等に対する苦情／家族	解決済
ぴぼっと支倉	ヘルパーの派遣ミスに対する苦情／利用者本人	解決済
	子が生活するグループホーム（他法人）の連絡先伝達に対する苦情／家族	解決済

	担当学会議の未開催、計画相談の未作成等、職員の対応に対する苦情／家族	解決済
びぼっと南光台	レスパイト利用時の怪我に対する苦情／家族	解決済
	要望に対して不満気な態度を取ったり、嫌味を言ったり、ヘルパーの対応に対する苦情／家族	解決済
	レスパイト利用時、職員間で引き継ぎができていなかったことに対する苦情／家族	解決済
ピポット若林	ヘルパーのタバコ臭に対する苦情／家族	解決済
グループホーム	ボランティアとの立ち話の内容に対する苦情／近隣	解決済
	騒音に対する苦情／隣家住人	解決済
※合計 21 件 （内訳） 利用者のご家族からの苦情 11 件、事業所の近隣住民からの苦情 9 件 利用者ご本人からの苦情 1 件		

(2) 法人基本構想 2017 公表と内部共有及び本構想に基づく取り組み

法人の前身にあたる任意団体「仙台市重症心身障害児(者)を守る会」が社会福祉法人格を取得して四半世紀を迎える節目に、社会福祉法人制度改革に基づく法改正等による変革期に対応し、社会的に問われている法人の経営基盤の強化等を図り、社会的な課題への取り組みや法人の基本理念・経営ビジョンの実現に向け、経営の長期的視点にたった「基本構想 2017」を定めました。本構想を内部職員すべてが共通認識・理解し、一丸となって様々な課題に取り組むために内部共有の徹底を図るとともに、社会からの共感と協力等を得る観点からホームページを通して公表しました。

(3) 法人設立 25 周年記念式典等の実施

前記のとおり、社会福祉法人設立の平成 4 年 7 月から 25 年(四半世紀)を迎える節目に、この間多くの方々からのご支援に対し感謝の意を表することを目的に記念式典を以下の通り行いました。

- 開催日時 : 平成 29 年 11 月 18 日 (土)
- 開催場所 : ホテルメルパルク仙台
- 出席者数 : (式典) 198 名、(懇親会) 107 名
- 主な内容 : つどいの家の歩み(過去)、ミライヘノコトバ(将来) ＊映像による紹介
記念シンポジウム
～「重いしょうがいがあっても、地域で生きる」を支援する～
シンポジスト 日浦美智江氏(社会福祉法人訪問の家前理事長、他)
宮代隆治氏(社会福祉法人さざんか会理事長)
黒田秀郎(厚労省保険局医療介護連携政策課長)
進行 下郡山和子(法人理事長)
- 協賛団体 : 32 社
- その他 : 記念誌の発行(巻末広告 28 社からの掲載協力を含む)
七十七愛の募金会から 20 万円受贈

(4) その他事務手続き

- ◆ 登記に関する事項
 - ・資産総額変更登記（6/28）
 - ・代表者就任(重任)登記（6/28）
 - ◆ 行政手続き
 - ・社会福祉法人現況報告書等提出/仙台市（6/29）
 - ・定款変更認可申請/仙台市（7/4 認可）
 - ・障害者総合支援法に規定する業務管理体制に関する一般検査報告/仙台市（1/11）
 - ・専門的知識等を有する有期雇用労働者等に関する特措法に基づく第二種計画/県労働局（2/2 認定）
 - ◆ 仙台市長への要望書提出/法人単独提出（平成 29 年 10 月 24 日付提出、同日回答）
 - (1) 食事提供体制加算に関する件について
 - ① 加算の恒久化に向けて国への働きかけ
 - ② 加算廃止となった場合、市独自の補助創設
 - (2) 送迎加算廃止に伴う仙台市独自の加算創設について
 - (3) 相談支援事業について
 - ① 相談支援事業の円滑な運営を図るための配慮
 - ② 相談支援事業における相談員の配置是正
 - ③ 「ぴぼっと支倉」の相談支援事業における業務環境の改善措置
 - (4) グループホーム関連について
 - ① 仙台市独自の家賃補助制度の創設
 - ② 生活保護費の住宅扶助基準額における特別基準の適用要件の見直し
 - (5) 仙台市家族支援等推進事業に関する件について
 - (6) 移動支援事業について
 - ① しょうがい特性に応じた利用認定の在り方
 - ② 移動支援における補助単価の見直し
 - (7) 福祉人材の確保に向けて、仙台市が主体となった官民協働による取り組みについて
- (仙台市知的障害者関係団体連絡協議会経由) 7/18 提出
上記(1)-②、(3)-②、(4)-①及び(7)の項目のみ

- ◆ つどいの家・コペル浴室改修等環境整備
 - (1) 清水基金助成事業（平成 28 年度助成事業）
 - ・「コペル」浴室改修工事
 - ・総事業費：12,927,600 円
 - (内訳) 本体工事費 10,530,000 円
 - 設計監理費 2,397,600 円
 - ・助成確定額：7,200,000 円（補助率 55.7%）
 - ・助成契約日：平成 29 年 5 月 12 日
- ◆ 契約執行に関する事項
 - (1) コペル浴室改修工事（清水基金助成事業）
 - ・指名競争入札 6 社指名中 4 社応札
 - ※開札日：平成 29 年 4 月 27 日
 - ※落札業者：㈱丹秀工務店
 - ※落札金額：9,750,000 円（落札率：97.7%）
- ◆ 法人内部規程・基準等の整備
 - ・就業規則 /改正
 - ・介護休業及び介護短時間勤務に関する規則 /改正
 - ・賃金規程 /改正
 - ・経理規程 /改正
 - ・文書取扱規程 /改正
 - ・個人情報・特定個人情報保護規程 /改正
 - ・(各事業)運営規程 /改正
 - ・法令遵守規程 /創設
 - ・職員退職手当支給規程 /創設
 - ・非常勤職員等賃金等支給基準 /改正
 - ・職員の国際貢献活動のための休業に関する基準 /創設
 - ・グループホーム預り金等管理取扱指針 /創設
 - ・個人情報保護指針(プライバシーポリシー) /改正
- ◆ 事務研修（他法人視察・意見交換）
 - 4 月 11 日 宮城県 白石陽光園（役職員 3 名）
 - 4 月 19 日 宮城県 栗原秀峰会（役職員 3 名）
 - 11 月 28 日 山形県 愛泉会（役職員 4 名）

II 法人の現況に関する事項

1 法人概要

- (1) 法人名称 社会福祉法人 つどいの家
- (2) 主たる事務所の所在地 仙台市若林区上飯田 1 丁目 17 番 58 号
- (3) 事業種別

第 2 種社会福祉事業	障害福祉サービス事業の経営 (生活介護、自立訓練(生活訓練)、居宅介護等、指定特定相談等、共同生活援助)
-------------	---

	相談支援事業の経営 障害児等療育支援事業の経営 移動支援事業の経営 障害児通所支援事業の経営
公益事業	障害者家族支援等推進事業 福祉有償運送事業 自立体験ステイ事業

(4) 事業の種類及び名称など (平成 30 年 3 月 31 日現在)

事業所名称	所在地(仙台市)	管理者	実施事業	定 員	登録数
仙台つどいの家	宮城野区幸町 3	山口 収	生活介護	30 名	37 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	8 名
つどいの家・コペル	若林区上飯田 1	福地慎治	生活介護	40 名	47 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	6 名
つどいの家・アプリ	太白区山田本町	大累貴司	生活介護	30 名	32 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	7 名
八木山つどいの家	太白区八木山本町 1	佐藤秋男	生活介護	20 名	16 名
若林障害者 福祉センター	若林区遠見塚東	若生 滋	生活介護	9 名	11 名
			自立訓練(生活訓練)	6 名	1 名
ぴぼっと南光台	泉区南光台 3	檜山智彦	指定特定相談	—	67 名
			指定障害児相談	—	10 名
			居宅介護等 ※1	—	67 名
			障害者家族支援等	—	95 名
			福祉有償運送	—	9 名
ぴぼっと支倉	青葉区支倉町	山口 収	指定特定相談	—	124 名
			指定障害児相談	—	73 名
			指定一般相談	—	0 名
			委託相談支援	—	182 名
			障害者家族支援等	—	95 名
			福祉有償運送	—	— 名
ピボット若林	若林区遠見塚 2	渡部正史	指定特定相談	—	124 名
			指定障害児相談	—	9 名
			指定一般相談	—	0 名
			委託相談支援	—	71 名
			居宅介護等 ※1	—	93 名
			障害者家族支援等	—	90 名
			福祉有償運送	—	— 名
ひこうき雲	若林区沖野 3、他	飯田克也	共同生活援助	24 名	24 名

2 役員・評議員等の状況 (平成 29 年度内就任者の状況/平成 30 年 3 月 31 日現在)

(1) 理事・監事

(理事定数：6 名 監事：2 名)

役職名	氏 名	兼職状況	特殊関係等	理事会出席状況	備 考
理 事 長	下郡山 和子		なし	5 回／5 回(100%)	
常務理事	佐 藤 吉 久	職員・総務部長	なし	5 回／5 回(100%)	
理 事	佐 藤 清	市外郭団体理事長	なし	5 回／5 回(100%)	
理 事	菅 井 裕 行	大学教授	なし	2 回／5 回(40%)	
理 事	山 口 収	職員・日中活動支援部長	なし	4 回／4 回(100%)	
理 事	飯 田 克 也	職員・地域生活支援部長	なし	3 回／4 回(75%)	
理 事	下郡山 徹一			0 回／1 回(0%)	～H29. 6. 14
理 事	阿 部 達			1 回／1 回(100%)	～H29. 6. 14
監 事	村 上 秀 一	県老施協事務局長	なし	3 回／4 回(75%)	～H29. 12. 31
監 事	内 出 琢 也	税理士	なし	3 回／5 回(60%)	
監 事	三 浦 俊 一	金融持株会社監査役	なし	1 回／1 回(100%)	H30. 1. 1～

*任期：平成 29 年 6 月 15 日から平成 31 年 6 月の定時評議員会終結の時まで

(注) 社会福祉法第 40 条第 4 項及び第 5 項並びに社会福祉法施行規則第 2 条の 7 及び第 2 条の 8 に規定する欠格事由に該当する者又は親族関係にあるなどの特殊の関係にある者の有無をいう。

(2) 評議員

(評議員定数：7 名)

氏 名	兼務状況	特殊関係等	評議員会出席状況	備考
高 橋 治	他法人理事長	なし	3 回／3 回(100%)	
細 井 実	他法人理事長	なし	3 回／3 回(100%)	
川 住 隆 一	大学教授	なし	2 回／3 回(67%)	
久保野恵美子	大学院教授	なし	2 回／3 回(67%)	
萩野谷 和裕	県立病院副院長・医師	なし	1 回／3 回(33%)	
中 山 伸 枝	市教育局嘱託職員	なし	3 回／3 回(100%)	
三 浦 俊 一	金融持株会社監査役	なし	2 回／2 回(100%)	～H29. 12. 31
井 上 博	他法人理事長	なし	1 回／1 回(100%)	H30. 1. 1～
※監事の評議員会出席状況				
村 上 秀 一	県老施協事務局長	なし	0 回／2 回(0%)	～H29. 12. 31
内 出 琢 也	税理士	なし	1 回／3 回(33%)	
三 浦 俊 一	金融持株会社監査役	なし	1 回／1 回(100%)	H30. 1. 1～

*評議員任期：平成 29 年 4 月 1 日から平成 33 年 6 月の定時評議員会の終結の時まで

(3) 評議員選任・解任委員

(委員定数：3 名)

氏 名	区分	委員会出席状況	備 考
村 上 秀 一	監 事	0 回／1 回(0%)	※H29. 12. 31 退任
若 生 滋	事務職員	1 回／1 回(100%)	※互選により委員長就任
後 藤 道 子	外部委員	1 回／1 回(100%)	

三 浦 俊 一	監 事	0 回／0 回(－ %)	※H30.1.1 就任
---------	-----	--------------	-------------

*任期：平成 29 年 1 月 28 日から平成 33 年 6 月の定時評議員会の終結の時まで

(4) 地域生活支援諮問委員会

氏 名	区 分	委員会出席状況	備 考
下 郡 山 徹 一	有 識 者	3 回／3 回(100%)	前理事長
阿 部 達	有 識 者	2 回／3 回(67%)	前理事
飯 塚 定 男	地 域 代 表	2 回／3 回(67%)	宮城野区社会福祉協議会会長
猪 狩 公 子	地 域 代 表	2 回／3 回(67%)	太白区山田町内会副会長
松 永 なおみ	地 域 代 表	2 回／3 回(67%)	八木山地域包括支援センター所長
岡 本 浩 行	地 域 代 表	2 回／3 回(67%)	沖野東小防災関係スーパーバイザー (H29.5.28～)
高 橋 和	利用者家族	0 回／3 回(0 %)	八木山つどいの家利用者の家族
阿 部 美 佐	利用者家族	3 回／3 回(100%)	仙台つどいの家利用者の家族
安 藤 美 弥 子	利用者家族	2 回／3 回(67%)	つどいの家・コペル利用者の家族
坂 本 志 乃	利用者家族	2 回／3 回(67%)	つどいの家・アプリ利用者の家族

*任期：平成 29 年 4 月 1 日から平成 31 年 6 月の定時評議員会終結の時まで

3 理事会開催の状況

月 日	議案内容	採決	役員出席
第 1 回 H29.5.27 (土) ※旧法による 理事会	第 1 号 平成 28 年度事業報告に関する件	可決	理事 4 名 監事 2 名
	第 2 号 平成 28 年度決算及び監事監査報告に関する件	可決	
	第 3 号 地域生活支援諮問委員選任に関する件 《概要》法人定款に規定する地域生活支援諮問委員の追加選任	可決	
	第 4 号 定時評議員会の招集等に関する件 《概要》平成 28 年度事業報告、決算案件及び定款変更案及び改正社会福祉法による理事、監事の選任承認を得るため	可決	
	第 5 号 定款の一部改正案に関する件 《概要》租税特別措置法による特例適用を受けるための措置	可決	
第 2 回 H29.6.15 (木)	第 1 号 理事長の選任に関する件	可決	理事 6 名 監事 0 名
	第 2 号 常務理事の選任に関する件	可決	
第 3 回 H29.9.30 (土)	第 1 号 育児・介護休業法等の改正に伴う規則の一部改正案に関する件 《概要》改正育児介護休業法（平成 28 年 12 月 2 日法律第 95 号）に伴う規則改正案	可決	理事 4 名 監事 2 名
	第 2 号 故利用者からの土地遺贈に関する件 《概要》土地の遺贈申出があった場合の法人としての意思確認	継続	
第 4 回 H29.12.11 (月)	第 1 号 監事の辞任に関する件	承認	理事 6 名 監事 2 名
	第 2 号 評議員及び監事の選任候補者の推薦に関する件 《概要》監事辞任に伴う後任候補者の選任	可決	

	第3号 経理規程の一部改正案に関する件 《概要》社会福祉法人会計基準の改正等による規程の改正案	可決	
	第4号 平成29年度第1次補正予算案に関する件 《概要》総収入16,264千円、総支出8,758千円（収支差額7,506千円）の増額補正案	可決	
	第5号 退職手当共済事業に係る職員の退職の算定対象期間中の在職期間等に応じた金額の取扱いに関する件 《概要》現福祉医療機構退職共済制度加入対象外事業所に所属していた職員の補充措置	可決	
	第6号 故利用者からの土地遺贈に関する件 《概要》前回からの継続審議	可決	
	第7号 GH ひこうき雲における隣地住民との境界トラブルに関する件 《概要》土地の境界トラブル等に関連し、民事調停の申立可否	可決	
	第8号 アプリ利用者のご家族からのグループホーム運営に関する照会・申出に関する件 《概要》建て貸しによるグループホーム等の運営嘆願に対する法人の対応等	嘆願 見送	
	第9号 第2回評議員会の招集等に関する件 《概要》監事選任及び予算案承認を得るため	可決	
第5回 H30.3.23（金）	第1号 定款の一部改正案に関する件 《概要》自立体験ステイ事業の廃止及び「ひこうき雲」借入完済による土地・建物の基本財産編入など	可決	理事5名 監事1名
	第2号 法令遵守規程の創設に関する件 《概要》業務管理体制を整備、構築するため	可決	
	第3号 職員退職手当支給規程の創設に関する件 《概要》前回、議案審議により承認のあった事項を実施、運用するため	可決	
	第4号 諸規程の一部改正案に関する件 《概要》個人情報等保護規程、介護休業等に関する規則、就業規則、賃金規程、経理規程、文書取扱規程及び各運営規程の改正案	可決	
	第5号 苦情解決第三者委員の任期満了に伴う選任に関する件 《概要》任期満了に伴う苦情解決第三者委員の選任	可決	
	第6号 平成29年度第2次補正予算案に関する件 《概要》総収入22,676千円、総支出21,849千円（収支差額827千円）の増額補正案	可決	
	第7号 管理職人事に関する件 《概要》定款に規定する平成30年度管理者人事案	可決	
	第8号 平成30年度事業計画案に関する件	可決	
	第9号 平成30年度当初予算案に関する件	可決	
	第10号 評議員選任・解任委員の選任に関する件 《概要》委員辞任による後任選任	可決	
	第11号 第3回評議員会の招集等に関する件 《概要》定款変更案、平成30年度事業計画・予算案の承認を得るため	可決	

4 評議員会開催の状況

月 日	議案内容	採決	出席者数
第1回(定時) H29.6.15(木)	第1号 平成28年度事業報告に関する件	可決	評議員 5名 監 事 1名
	第2号 平成28年度決算及び監事監査報告に関する件	可決	
	第3号 定款の一部改正案に関する件	可決	
	第4号 理事及び監事の選任に関する件	可決	
第2回 H29.12.25(月)	第1号 監事の選任に関する件	可決	評議員 6名 監 事 0名
	第2号 平成29年度第1次補正予算案に関する件	可決	
第3回 H30.3.28(水)	第1号 定款の一部改正案に関する件	可決	評議員 6名 監 事 1名
	第2号 平成29年度第2次補正予算案に関する件	可決	
	第3号 平成30年度事業計画案に関する件	可決	
	第4号 平成30年度当初予算案に関する件	可決	

5 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況

(1) 評議員選任・解任委員会

月 日	議案内容	採決結果
第1回 H29.12.18(月)	第1号 評議員の選任に関する件 《概要》評議員1名が監事辞任による後任に推挙されることとなった。そのことにより評議員1名が欠員となるため	理事会で選任した候補者を審議し、可決承認となる。

(2) 地域生活支援諮問委員会

月 日	報告事項他	出席者数
第1回 H29.7.31(月)	第1号 平成28年度事業報告及び平成29年度事業計画について	諮問委員 7名
	第2号 法人基本構想及び平成28年度の決算概要の共有について	
	第3号 地域における福祉ニーズに関する意見交換について	
第2回 H29.10.31(火)	第1号 平成29年度事業計画の上半期の振り返りについて	諮問委員 7名
第3回 H30.3.12(月)	第1号 平成30年度事業計画案の報告及び意見聴取 その他 地域及び各施設等における話題等の提供	諮問委員 6名

(3) その他の会議・委員会

部門	会議名	主たる内容・成果	次年度への課題等	実施回数
主要会議	経営会議	各部門課題検証、市長要望、内規検討等		12回
	経営戦略検討会議	—	財務状況改善への取組	0回
	人事委員会	人事全般、改正労働契約法等対応検討等	職員育成プラン拡充等	22回
	法人設立25周年記念 行事準備委員会	式典実施に伴う検討と諸準備、記念誌編集・出版など	当該年度で終了	5回
	事業運営会議	事業運営の課題検証、財務課題の把握等		12回
経営部門委員会	法人衛生委員会	快適な職場環境の見直し、労災事例検証、健診等の総括、感染拡大防止措置など	メンタルヘルスケアガイドライン見直し等	8回
	コペル衛生委員会	労働安全衛生法に定める事項の検証ほか		12回
	権利擁護・虐待防止委員会	権利擁護・しょうがい者への虐待防止全般にわたる検討。虐待防止ガイドライン運用と意識向上など	ガイドラインの見直し	4回
	防災委員会	法人総合防災マニュアルの整備、事業所内避難所機能の在り方、BCP策定検証、他	マニュアル整備、各所BCP検証など	5回
	職員研修委員会	法人内部研修の実施に伴う役割分担と研修終了後の振り返りを経て、次年度計画に繋げる	相談事業や居宅介護系職員の委員会参加が低調	5回
	G H運営の在り方に関するプロジェクト委員会	個人単位での居宅介護利用制度廃止となった場合の対応と試算、居宅介護等特定事業所加算取得条件の確認とその対応、勤務形態の見直し、アンケート実施と検証など	当該年度で終了	4回
	ピボット若林再編等検討プロジェクト委員会	土地受贈(可能性)に伴う事業の再編検証、改正消防法に伴う既存レスパイト事業所設備整備など	継続検討	5回
事業運営部門	レスパイト事業検討会議	事業の諸課題検討、連協への対応(法人意見の集約・整理)など	新規受入対応、医療レスパイトなど	6回
	ヘルパー事業検討会議	特定事業所加算取得検討、人材確保、登録ヘルパー勤怠管理など	継続検討	12回
	相談支援事業検討会議	市・県自立協や各部会、国の動向等の共有、相談支援事業としての業務実態の検証や負担軽減策の検討など	報酬改定を踏まえた取組み、委託・計画相談の棲み分け、統廃合など	5回
	日中活動支援事業検討会議	アート展開催、宿泊を伴う活動検証、福祉台帳システムの検証など	医療的ケア、利用者の高齢化対応など	3回
	個別支援計画在り方検討委員会	事業所間における個別支援計画作成プロセスの差異など、顕在化した課題を検証し、計画書作成時の様式、媒体を統一	個別支援計画ハンドブックの見直し	6回
情報交換調整	食事サービス従事者連絡会	各所の取組みなど近況報告と情報共有、震災や火災時の安全確認、食事提供体制加算廃止の場合の対応、きざみ食などの対応等	継続検討	4回
	PT・OT 連絡会	情報共有、利用者のケース検討、障害福祉サービスの確認及び研修報告を行い、個々のスキル向上に繋がった	利用者の高齢化への対応、職員の腰痛予防など	2回
	看護師連絡会	感染症マニュアルの見直し、感染対策とバイタルサイン、医療連携に活用するための看護師連絡票の作成、利用者の健診内容の見直しなど	健康診断の在り方等	4回

	サービス管理責任者 連絡会	生活介護事業所間の課題や取組みを共有、問題把握など	各所の取組みを更に 深めて知る	4回
	日中活動チーフ連絡会	エンカウンター手法を用いた個人・グループワークを通して、チーフ間の相互交流など	継続実施	2回
	南北グループホーム 連絡会	入居者に関する GH・通所事業所間の情報共有、記録や連絡方法等の確認など	継続実施	9回
	総務ミーティング	法人経営・事業運営の資金獲得方法等の検討、経理・労務事務の効率化、合理化を図るための共有と検証など	・左記継続検討、他	33回

6 監査等の状況

(1) 監事監査

実施日	監査内容	監査員	指摘事項等
H29.5.20(土)	事業年度(平成28年度)に係る業務執行状況及び財産状況	村上監事 内出監事	人材育成システムの再構築、経営基盤の安定化に向けた取組み、資金運用等の検証など
H29.11.25(土)	平成29年度上半期決算に係る会計処理等進捗確認など	内出監事	財務ソフト設定上の不備改善及び会計処理方法の見直しなど

(2) 外部機関等による監査など

項 目	監査・調査内容	監査員	(文書) 指摘事項等
行政監査等	法人一般監査 H29.9.1(金)	社会福祉法第56条及び同法第70条等に規定する監査 市職員等 3名	・特になし
	障害者虐待防止 法に基づく調査 H29.6.1(木) H29.6.23(金)	利用者への虐待行為の可能性 があることの通報に基づく 事実確認 市職員 5名	・虐待と認められる行為は確認 できなかった。 ・職員が安心して支援にあたる ことができる職場環境整備(研修・ 支援スキルの向上)を図ること。
	男女雇用機会均 等法、育児・介護 休業法及びパート タイム労働法に基 づく報告徴収 H30.1.15(月)	左記法律の規定に基づく雇 用管理に関するヒアリング と各種調査など 雇用均等 指導員 1名	・平成29年10月1日に施行され た改正育児・介護休業法に適用す る法人規則の条文間不整合箇所 の改善について
	集団指導 H30.3.16(金) H30.3.19(月)	制度・報酬改定、障害者虐待 防止、障害福祉サービス等運 営上の各種届出、指導監査な ど —	
	※その他事業所実地監査については実施なし		

7 運営事業の状況及び事業利用者の推移

実施事業	平成 29 年度 利用総数	平成 28 年度 利用総数	平成 27 年度 利用総数	前年度比
生活介護	27,330 (名)	25,529 (名)	24,298 (名)	7.1%
特例生活介護・児童発達支援	3,117 (名)	2,885 (名)	2,964 (名)	8.0%
自立訓練(生活訓練)	54 (名)	99 (名)	85 (名)	△ 45.5%
地域活動センター (注1)	—	1,223 (名)	1,739 (名)	—%
居宅介護	16,676.0 (時間)	16,312.8 (時間)	15,524 (時間)	2.2%
重度訪問介護	1,380.5 (時間)	1,267.5 (時間)	1,347 (時間)	8.9%
行動援護	256.0 (時間)	250.5 (時間)	262 (時間)	2.2%
同行援護	544.5 (時間)	501.0 (時間)	374 (時間)	8.7%
移動支援	13,964.0 (時間)	14,866.0 (時間)	15,170 (時間)	△ 6.1%
障害者家族支援等推進事業	26,918 (時間)	26,506 (時間)	27,156 (時間)	1.6%
指定特定相談支援 (計画)	385 (件)	444 (件)	456 (件)	△ 13.3%
〃 (モニタリング)	739 (件)	740 (件)	679 (件)	△ 0.1%
委託相談支援事業	2,870 (件)	2,555 (件)	3,844 (件)	12.3%
障害児等療育支援事業(訪問)	168 (件)	192 (件)	182 (件)	△ 12.5%
〃 (外来)	28 (件)	26 (件)	28 (件)	7.7%
福祉有償運送事業 (注2)	117 (件)	404 (件)	239 (件)	△ 71.0%
共同生活援助	7,659 (名)	6,878 (名)	6,404 (名)	11.4%

(注1) 地域活動センターとして運営していた「八木山つどいの家」は、平成 28 年 10 月 1 日より「生活介護」に移行

(注2) 実施事業所 3 拠点のうち、2 拠点については平成 29 年 9 月 30 日をもってサービス提供を終了した

8 地域における公益的な取組の状況

「Ⅲ 事業運営に関する事項」における各事業所の取り組みに掲載

9 職員の状況

(1) 職員数の現況と推移 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

職員数	前年度比	平均年齢	平均勤続年数
233 名	6 名増	44.2 歳	6 年 7 ヶ月
(内 訳) 常勤 119 名、準常勤 9 名 非常勤 76 名、嘱託 18 名 登録ヘルパー 11 名	(内 訳) 常勤 1 名、準常勤 1 名 非常勤等 2 名増	(内 訳) 常勤 36.7 歳 非常勤等 51.8 歳	(内 訳) 常勤 7 年 7 ヶ月 非常勤等 5 年 6 ヶ月

(2) 入退職者の状況

【入職者状況】

雇用形態	新規学卒者	既卒者	合 計
常 勤 職 員	5 名	8 名	13 名
準常勤職員	0 名	1 名	1 名

非常勤職員	0名	7名	7名
登録ヘルパー	0名	1名	1名
嘱託職員	0名	1名	1名
合 計	5名	18名	23名

【退職者状況】

勤続年数 雇用形態	1年未満	～3年未満	～5年未満	～10年未満	10年以上	合計	離職率
常 勤	1名 (0名)	1名 (1名)	2名 (2名)	2名 (2名)	1名 (0名)	7名 (5名)	5.9% (4.2%)
非常勤等	0名 (3名)	0名 (4名)	3名 (0名)	3名 (3名)	0名 (0名)	6名 (10名)	5.3% (9.2%)
合 計	1名 (3名)	1名 (5名)	5名 (2名)	5名 (5名)	1名 (0名)	13名 (15名)	5.6% (6.6%)

※ () 内は前年度退職者数を表記

(3) 新職員確保に向けた取り組み

- ・就職説明会（法人独自）の開催や(大学・専門学校等)学内説明会の実施
- ・職員としての仕事のやりがいや意義などを広く紹介するためのプロモーションビデオを作成
- ・ハローワーク、県福祉人材センター又は民間団体主催就職説明会への参加
- ・インターンシップの導入検討と大学キャリアセンター等との連携、照会など
- ・その他、求人広告やインターネット媒体等の活用、施設見学会の実施（随時）

企画名	期 日	実施場所	対応職員	ブース参加者
法人主催 就職説明会①	8月26日	仙台つどいの家	0名	0名
〃 ②	10月28日	〃	0名	0名
マイナビ主催 就職セミナー	7月29日	仙台国際センター	4名	15名
ランチ de 就活 企業・学生交流会	10月24日	シエロ仙台	1名	8名
福祉の仕事面談会	10月28日	東北福祉大東口	3名	7名
福祉就職フェア in みやぎ	11月12日	トラストタワー	4名	8名
(合 計)				38名

(4) 職員研修システムの遂行

(職 制)

月	日	曜	項 目	内 容	参加者数
4	13	木	全体研修 (常勤・準常勤)	テーマ「制度と法人の歩み」地域生活資源の開発と活用 ～個々のニーズから出発したソーシャルアクション・ 社会福祉法人の責任として～ 講師：理事長 下郡山和子 会場：つどいの家・コペル	83名 /131名
5	12	金	3・4級研修 (職位別)	テーマ「腰痛対策」について ～姿勢について学ぶ／腰痛予防対策～ 講師：つどいの家産業医 佐藤一望先生 会場：つどいの家・コペル	32名 /49名

6	30	金	1～2級研修① (職位別)	テーマ「重いしょうがいのある人とのコミュニケーションと実践」 ～重症児者のコミュニケーション方法や手法など数々の実践方法を学ぶ～ 講師：つどいの家 評議員 川住隆一氏 会場：つどいの家・アプリ	46名 /56名
6	30	金	1～2級研修② (職位別)	テーマ「自分の健康について知ろう」 ～健康・感染症などの対策について/実技も交えて開催～ 講師：法人看護師 会場：つどいの家・アプリ	46名 /56名
6	30	金	非常勤職員等 研修	「全体会」テーマ 「社会福祉法人つどいの家 25周年を迎えるまで…」 「分科会」 第1分科会「感染症について」担当：看護師 第2分科会「シーティングについて」担当：療法士 第3分科会「地域生活支援の役割とは」担当：ヘルパー事業サビ責 第4分科会「発達障がい・自閉症について」担当：通所サビ管 第5分科会「重症心身障がい児者の支援について」担当：通所サビ管 第6分科会「すてーじ」上映 担当：通所管理者 会場：宮城県障害者福祉センター及び仙台つどいの家	79名 /98名
7	4	火	職員座談会 (常勤・準常勤)	ディスカッション「すてーじ」 ～利用者の個性を見極め伸ばす支援、本人主体の支援とは～ Co：理事長 下郡山和子 会場：①若林中央市民センター別館第3会議室 ②ビボット南光台	①65名 ②7名 /131名
7	28	金	3・4級研修 (職位別)	「障害者保健福祉について」 ～仙台市における障がい福祉の歴史/当時の障がい福祉の状況や 市役所職員としての苦悩と葛藤など～ 講師：障害企画課 企画係 小幡係長 会場：つどいの家・コベル	25名 /49名
8	30	水	5・6級研修 (職位別)	「ジェンダー基礎講座」 ～性同一障がいやジェンダーについての基礎を学ぶ～ 性と人権ネットワーク ESTO 内田有美氏 場所：宮城県障害者福祉センター 中会議室	7名 /16名

(権利擁護・虐待防止委員会主催 内部研修等)

- 内部研修：「虐待防止とその対応に関するガイドライン」に基づき、権利擁護及び虐待防止に関する職員の意識向上を図ることなどを目的に、各事業所にて内部研修を年2回実施しました。

第1回：グループワークを通じて、自分自身の権利や利用者の人権について考える機会を持つ

第2回：ロールプレイを通じて、自らの支援を振り返る機会を持つ

- 話しすっぺし：法人内生活介護事業所の希望利用者（全14名）が参加し、少人数のグループにて「自らの話したいこと（伝えたいこと）」を話し合いました。

(5) 相談支援、サービス管理責任者等研修への職員派遣

- ・相談支援従事者初任者研修 4名
- ・相談支援従事者現任研修 5名
- ・サービス管理責任者研修 6名

(6) 資格取得奨励助成事業(法人独自)の継続実施

- ・介護福祉士実務者研修受講 1名

(7) 職員労働環境改善等に向けた取り組み

- ・仕事に関する職員満足度調査の実施

Ⅲ 事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）

1 仙台つどいの家 事業報告

【 はじめに 】

年度当初に重点的な取り組み目標として掲げた『父親の活躍のさらなる促進』と『後援会活動の活性化』についてはおおそ目標通りの取り組みができましたが、『近隣学校との一歩踏み込んだ交流』については課題が残りました。『学会会への参加』や『親子クッキング・夏まつりなどの行事への参加促進』は例年以上に行なえましたが、子どもたち一人ひとりがしょうがいのある方と身近に接していく機会については、今後ボランティア体験の場の設定などを通して作っていく必要があると考えています。

地域の方々とまじわる機会としての行事開催は、これまで以上に意識して行えたのではないかと思います。夏まつりやバザー、チャリティコンサートなどの大きな行事のみならず、イエローレシートキャンペーンや市民センターまつりへの積極的な参加・交流を通して、利用者と地域住民の方が自然にまじわる機会を多く設定できました。一方で、日常的なケースワークへの意識をさらに持っていく必要があるとも考えます。日頃の活動の質をどのように上げていくのかを職員一人ひとりが考えていく必要があると思います。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン 1

- とんがらし通信による啓発や各種行事、黄色いレシートキャンペーンへの参加等により、近隣住民の方に利用者・しょうがいのある方の存在を身近に感じてもらうようなアピールを行なうことができた。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン 2

- コンサート・夏まつり・バザー・すてーじ・親子クッキングなどの行事を通して、利用者と地域の方が自然にまじわることができる仕掛けを行なった。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン 3

- 『かけこみ 110 番の家』を受託し、安全・安心の街づくりの一翼を担うことができた。
- 市民センターまつりや町内会行事への参加を通して、地域の中で役割を持つことができた。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン 4

- 相談支援事業所との協働により、少しずつではあるが出席困難な方の出席率が向上しつつある。
- 一方で、インフルエンザ等の感染症流行による出席率の低下が今年度は顕著だった。
- 職員の会による物販などの収益活動を試行することができた。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン 5

- 外部研修への参加及び先進事業所での職員実習を行なった。
- 腰痛対策・ポジショニング・おむつフィット・個別ケースなどをテーマに内部研修を実施した。

【 その他重点項目に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 近隣学校との交流強化	・各種行事への参加案内 ・学校行事への参加 ほか	・夏まつりへのブラスバンド部参加により学校との交流が進んだ。 ・親子クッキングでは定員の関係で希望に応えられない状況もあったことから、次年度拡大して検討。 ・ボランティア体験など具体的な動きにつなげることができなかったため、次年度に持ち越し。
(2) 家族へのアプローチ強化	・施設懇談会・保護者会との共同行事 ・親父の会の開催の継続 ほか	・夏まつりなどの行事への家族（特に父親）の積極的参加が見られた。 ・親父の会については、参加する顔ぶれの拡大が課題。
(3) 後援会活動の活性化	・募金箱の定期回収・再設置の徹底 ・新規後援会員の獲得 ほか	・とんがらし通信への入会案内挟み込みにより、少数だが新規での入会が見られた。 ・活動内で募金箱を回収・設置することで、応援してくれる店舗が増えた。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月 1 回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
ケース会議	月 1・2 回	支援計画やケース資料等の確認・検討ほか
チーフ会議	月 1・2 回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
その他各種会議・打合せ	必要時	各行事企画運営、通信企画編集、ご近所 P ほか

< 内外部研修 >

(内部研修) ・視聴覚しょうがい（盲聾）の方のコミュニケーション支援（菅井教授：宮城教育大学） ・実習、各種研修報告 ・ポジショニング（宮川智道さん：当事者） ほか	(外部研修) ・リーの会交換研修 ・福祉協会交換研修 ・訪問の家朋見学 ・サポート研セミナー ・厨房・事務職員視察研修 ほか
--	--

< 行事等 >

名称	頻度	参加者数	目的など
イエローレシートキャンペーン	月 1 回	5－10 名	地域交流・C S R活用ほか
コンサート	年 4 回	70－150 名	芸術鑑賞・地域交流・地域貢献ほか
親子クッキング	年 3 回	10 名前後	地域交流・地域貢献・
夏まつり	8／5	約 200 名	地域交流・地域貢献ほか
バザー	10／15	約 200 名	地域交流・地域貢献・啓発ほか
すてーじ	12／8	約 150 名	地域交流・地域貢献・啓発ほか
成人を祝う会	1／20	約 80 名	成人お祝い

< 見学・訪問者一覧 >

	一般来訪者	他施設等利用者及び 保護者	他施設等職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内他事業所職員	合 計
4 月	13	0	6	0	29	0	0	0	9	64	15	136
5 月	18	3	9	1	24	2	13	0	6	47	40	163
6 月	27	0	7	9	31	0	1	0	9	58	33	175
7 月	30	0	4	20	35	3	16	0	5	49	13	175
8 月	211	2	13	6	43	0	15	0	2	45	23	360
9 月	32	0	8	3	26	0	3	0	4	48	20	144
1 0 月	238	3	7	9	39	0	5	0	6	55	25	387
1 1 月	72	0	5	21	31	0	0	0	7	54	27	217
1 2 月	114	0	13	25	26	0	0	0	8	46	17	249
1 月	31	4	3	16	23	0	0	0	9	52	29	167
2 月	30	0	17	11	13	0	4	0	4	50	17	146
3 月	53	0	11	6	29	0	7	0	8	50	16	180
合計	869	12	103	127	349	5	64	0	77	618	275	2,499

< 利用状況等 >

「Ⅳ 参考資料」に掲載

2 つどいの家・コペル 事業報告

【はじめに】

平成 29 年度は管理者及びサービス管理責任者も変わり、グループチーフも大幅な変更があった。それらを要因とし、年度当初は運営にも様々な影響があったと感じる。特定の利用者の怪我が続き、理事長の判断で障害者虐待防止法に基づき仙台市へ通報を実施。結果的に職員による虐待の事実とは認定されなかったものの、支援現場における様々な課題を捉える機会となった。(利用者本人が感じた痛みや苦痛に関しての反省は勿論のこととして)

利用者の高齢化と多様化等の現状を踏まえ、大浴室を活動スペースとする改修工事を企画立案。平成 28 年度に清水基金の助成金を申請。補助金の交付を受け、平成 29 年度に改修工事を実施することができた。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン 1

- 権利擁護・虐待防止委員会主催の研修を開催し、権利や人権に関する意見交換を実施。
- 事業計画に位置付けた『利用者や家族との権利擁護に関する話し合い』は実施することができなかった。
- 前述した虐待防止法に基づく通報及び実地調査の結果、仙台市より通知文書を受け取る。仙台市からの指摘事項を基に改善計画書を作成し、改善の具体策を講じた。その経過と結果を書面化し、改善報告書として仙台市へ提出した。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン 2

- コペル通信第 78～83 号発行 各号共に約 1200 部を配付。
- 沖野東小学校、沖野中学校との交流会実施。管理者が沖野東小学校の学校評価委員を受任。
- 職員が沖野市民センターまつりの実行委員会に参加した他、近隣の市民センター等のイベントへ参加。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン 3

- 新人職員を対象に運転手研修(座学と実車練習)を実施。運転手を対象に運転手連絡会を実施。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン 4

- 特別支援学校の実習生を幅広く受け入れし、平成 30 年度新規利用者について本人の状態と事業所のマッチングを図った。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン 5

- 年度後半から総務のミーティングを定例化し、総務内の情報共有を図った。
- 内部研修を全 4 回実施。グループチーフによるディスカッション、感染症予防、医療と福祉の連携等を学ぶ機会を持った。
- 強度行動障害支援者養成研修への参加。(基礎研修修了者 2 名 実践研修修了者 2 名)
- 一人ひとりの研修ニーズの把握は不十分であった。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的な取り組み	目標とする成果等	評 価
(1) 表現としてのアート活動の推進 アートによる社会参加	・外部講師（すんぷちよ）の活用による個別、集団での定期的な活動の実施 ・各種公募展への応募	地域内展覧会の実施 アート作品の商品化	人事異動に伴う影響もあり、地域内展覧会及びアート作品の商品化共に未達成。
(2) 活動スペースの改善	・大浴室を活動室へリフォーム	利用者の個別性やペースを大切にした活動グループの再編 光熱水費及び設備修繕費の削減	清水基金の助成を経て、大浴室の改修工事を完了。平成 30 年度からグループ編制を見直し、活動スペースとして使用予定。
(3) 地域包括支援センターとの連携	・ポラーノでの認知症カフェ『ほっこりカフェ』開催（月 1 回／年 12 回）	高齢分野との連携が強まる 地域（高齢）ニーズの把握 コペルに出入りする地域住民が増える	高齢分野との連携強化及び地域ニーズの把握は未達成。

○ その他の活動

- 沖野地域 3 棟のグループホームとの密な連携及び必要に応じたフォロー体制。
⇒南部グループホーム連絡会の実施。人的フォローを実施。
- コペル保護者会再編のためのバックアップ。
⇒保護者会と共にバザー、親睦会を実施。役員を主に情報共有を図った。
- 知的障害者福祉協会及び重症心身障害者の地域生活を進め支援する会への参加及び活動推進
⇒知的障害者福祉協会総会への参加。重症心身障害者の地域生活を進め支援する会については管理者が中心に参加。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
職員会議	月 1 回	事業所運営の方向性、日程確認、情報共有、意見交換など
ケース会議 (全体・各グループ)	月 1 回	個別支援計画の具体案検討・見直し・検討、利用者や家族の状況共有など
チーフ会議	月 1 回+臨時	事業所運営の意思決定、事業報告、課題検討など
グループ会議	月 1 回	各会議・事業報告、施設の共通課題検討、意見交換など
月案会議	月 1 回	活動・体制調整、車両、共有備品等使用調整など
給食会議	年 4 回	食事提供にかかわる課題検討・意見交換など
喀痰行為安全委員会	月 1 回	支援員実地研修進捗確認、研修後の評価確認、課題検討など
送迎担当者連絡会	年 1 回	送迎に関する報告・意見召集・確認など
保護者懇談会(全体・各)	月 1 回	活動報告、日程確認、保護者会報告・意見交換など

< 内外部研修 >

内部研修 ・グループチーフによるディスカッション ・ファシリテーション技術 ・感染症予防 ・小児在宅医療の現状・医療と福祉の連携 外部研修 ・摂食嚥下サポートセミナー ・てんかん講座 ・全国知的障害関係施設長等会議 ・リーの会視察研修 ・ストレスチェック実施従事者研修 ・さをり織り指導者養成研修 ・宮城県社会福祉施設従事者事務職員研修 ・福祉車両安全運転講習会 ・喀痰吸引第3号研修 ・北部発達相談支援センター発達障害基礎講座 ・NPO法人ゆにぶろ視察研修 ・給食施設衛生管理研修会	・宮城県立こども病院療育支援研修会 ・宮城県相談支援従事者初任者研修 ・安全運転管理者講習 ・強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践） ・宮城県知的障害者福祉協会日中活動支援部会交換研修会 ・障がいのある人の芸術支援にかかる研修会 ・宮城教育大学附属特別支援学校創立50周年講演会 ・宮城県知的障害者福祉協会施設長研修 ・仙台市虐待防止及び差別解消の為の研修会 ・個別支援計画作成及び運用に関する研修会 ・宮城県サービス管理責任者研修 ・給食施設実践事例発表研修会 ・宮城県相談支援従事者現任者研修 ・タイムマネジメントセミナー ・宮城県社会福祉協議会事務担当者（労務管理）基礎講座
---	---

< 行事等 >

- ・コペルでバザーる ・すんぷちょによるワークショップ ・沖野東小学校交流会
・沖野中学校交流会 ・八軒中学校職場体験 ・沖野市民センター祭り ・六郷市民センター祭り
・若林市民センター祭り ・若林区民ふるさと祭り ・若林区役所等販売会

< 見学・訪問者一覧 >

(H29. 4. 1～H30. 3. 31)

	一般来訪者	他事業所等利用者及び家族	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4月	40	0	7	7	7	0	0	0	5	65	69	200
5月	32	0	1	0	0	0	7	0	6	50	40	136
6月	6	15	0	1	0	0	4	8	29	417	50	530
7月	4	2	11	0	3	1	4	0	17	21	28	91
8月	4	0	15	0	7	5	4	0	7	29	26	97
9月	15	4	2	1	10	6	0	6	10	30	58	142
10月	22	0	4	0	8	0	0	1	9	20	10	74
11月	34	0	18	2	2	8	0	9	5	17	22	117
12月	9	0	2	1	16	0	0	3	2	21	22	76
1月	4	0	13	0	1	0	0	0	2	20	25	65
2月	12	0	13	0	0	0	0	0	7	22	15	69
3月	18	0	5	1	1	0	1	2	16	29	39	112
合計	200	21	91	13	55	20	20	29	115	741	404	1709

3 つどいの家・アプリ 事業報告

【はじめに】

平成 29 年度初め、利用者の緊急入院や長期欠席が重なり、出席率の低下が如実に事業所の不安定化に繋がりました。しかし、通院同行や家庭訪問を続ける中、7 月以降は通所率も安定し、利用者も元気に通所しております。昨年度から力を入れている支援のひとつ、発達しょうがいや自閉症の障がいの特性を理解し、きちんとアセスメントした上で「根拠のある支援」を実践してきました。自閉症＝構造化の概念だけではなく、ひとり一人の支援を映像で見直すうちに、支援の方法が「根拠のない支援」となっていたことに気がつきました。魔法の杖はありません。まだ駆け出しではありますが、継続して、今後も試行錯誤していきたいと思えます。

職員については、メンタル不調者の課題はありますが、事業所全体で取り組めたのではないかと感じています。今年度は、数年ぶりに人的体制が整った年度でもありましたので、新規利用者を今年度見越しつつ、職員の研修先も拡大して、人材育成にも力を入れてきました。

【経営ビジョンに基づいた今年度の取り組みと評価】

○ しょうがいのある人の差別をなくし、地域生活に必要な資源を生み出す

経営ビジョン 1

- 宮城教育大学ゲストスピーカー実施（利用者 2 名）
- 利用者の自宅訪問（アセスメント）・通院同行の実施
- 自閉症に関する研修会／内部研修

○ 地域社会の支援を受け、参画を促し、法人で培ったものを還元する福祉の街づくり、共生社会の実現をめざす

経営ビジョン 2

- 外出先の拡大・宿泊体験会の実施（船形コロニーにて）
- 写真展示会（市民センター・エフエムたいはく）

○ 地域の人や利用者をはじめ社会に信用され、選ばれる存在であり続ける

経営ビジョン 3

- バザーの開催（株式会社 マルタマさん販売協力）
- 厨房（グリストラップ）清掃 マニフェスト発行

○ 経営基盤をゆるぎないものにする

経営ビジョン 4

- 時間外勤務の申請化
- 八木山つどいの家へ給食の提供（週 2 回、火・木：真空調理）
- 2017 年度 出席率等結果について

内容	2017 年度目標	2017 年度 結果	目標数値の増減
アプリ利用者出席率	93.6%	93.1%	0.5%減
ミント利用者出席率	83%	85%	2%増
土曜日開所日・出席率	70%	79.1%	9.1%増
ミント祝日通所出席率	60%	71.8%	11.8%増
事務経費の削減	35 万円	35 万円	-（コピー機 1 台分）

○ 職員も仕事を通じて自己実現ができる環境をつくる

経営ビジョン 5

- 先進地域への見学・実習
- 業務量の見直し
- 年休取得率の向上

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分 類	重点課題	具体的な取り組み	評 価
日中活動支援	アセスメント力を高める	家庭訪問の実施	一定の評価あり
家族との関わり	事業（後援会）への理解	後援会事務局担当	家族との連携強化
地域との関わり	地域との関わりを深める	展示会や見学会の開催	障がいの理解深まる
環境を考える	分かりにくさ	環境づくりへの工夫	障がい特性の理解、工夫が必要

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	毎月	各項目に分かれて、協議確認
グループ会議	隔月	ケースワークや諸課題の整理
チーフ会議	毎月 2 回	事業所内の検討課題について協議
月案会議	毎月	サビ管とチーフが中心になり、活動内容の確認
ケース会議	毎月 (10 月以降 2 回)	利用者のケースワーク、研修会の開催、自宅訪問等
全体懇談会	隔月	事業所の課題、保護者会との取り組みなど

< 内外部研修 >

内部研修 ・ 歯磨き指導 ・ 喀痰吸引について 外部研修 ・ 新任研修 ・ リーダー研修 ・ てんかん講座 ・ 甲種防火管理講習 ・ 全国知的障害関係施設長会議 ・ 宮城県障害者福祉施設職員研修 ・ ひかり苑公開講座 ・ 衛生推進者養成講座 ・ 暮らしの見通し講演会 ・ 経営セミナー	・ 全国知的障害福祉関係職員研究大会 ・ 販売スキルアップ研修 ・ 人権・倫理委員会（年 4 回） ・ 強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践） ・ 安全運転管理者講習 ・ 全国重症心身障がい日中活動支援協議会 ・ 東北地区知的障害者福祉協会専門研修会 ・ OJT 指導者研修 ・ ホシザキ衛生管理講習会 ・ 看護ケア研修 ・ サポート研 ・ アメニティーフォーラム ・ 社会福祉法人 訪問の家 朋 ・ 社会福祉法人 武蔵野 など
--	--

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
宿泊体験会	6 月 8 日 (木)・ 9 日 (金)	10 名	七ツ森希望の家にて宿泊体験会開催
バザ〜っす	10 月 7 日 (土)	多数	バザーを通じて、地域につどいの家のことを知ってもらう。
山田町内会防災訓練	10 月 28 日 (土)	3 名	地域利用者参加
宮教祭	11 月 22 日 (日)	16 名	学祭への参加
新成人を祝う会	1 月 13 日 (土)	80 名程度	高橋桃子さん新成人
宮城教育大学ゲストスピーカー	10 月 31 日 (火)	2 名	今年で 10 年目。学生にむけて、障がい理解を進める活動。

< 渉外・他 >

4/11	山田中学校入学式	9/13	リーの会 打ち合わせ
4/14	東北福祉大学 研修打ち合わせ	11/2	宮城教育大学 訪問
4/24	後援会 総会	11/21	山田町内会地域防災訓練反省会
4/25	法人設立 25 周年 ウォークラリーアプリ出発	11/24	リーの会 南部ブロック打ち合わせ
4/28	第 1 回人権・倫理委員会	11/27	エフエムたいはく 打ち合わせ
5/ 1	リーの会 総会	11/28	第 3 回人権・倫理委員会
5/23	リーの会 南部ブロック打ち合わせ	1/22	宮城教育大学 訪問
5/31	職員会 総会	1/24	仙台市生活介護事業所連絡会議
6/12	後援会事務局会議	2/14	リーの会打ち合わせ
6/19	尚絅学院大学 訪問	2/19	仙台赤十字病院 協力機関医 訪問
6/21	みやぎ生協活動助成金説明会	2/23	嘱託医 契約 訪問
6/22	宮城教育大学 仙台医療福祉専門学校 訪問	2/27	第 4 回人権・倫理委員会
7/12	行政懇談会	3/19	新規利用者オリエンテーション
7/24	仙台医療福祉専門学校 就職説明		
7/28	縄文の森広場運営懇談会		
8/24	第 2 回人権・倫理委員会		
8/29	県政記者クラブ 案内お知らせ		

< 見学・訪問者一覧 >

(H29. 4. 1～H30. 3. 31)

	一般来訪者	他事業所等利用者 及び家族	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4 月	0	14	5	0	11	0	0	0	7	30	9	76
5 月	1	6	1	2	2	27	0	4	9	23	6	81
6 月	1	26	5	0	0	16	0	4	2	24	15	93
7 月	0	37	5	11	6	10	0	4	8	28	4	113
8 月	5	6	8	14	6	7	0	0	10	40	5	101
9 月	8	40	1	0	1	5	0	2	1	22	9	89
10 月	7	7	0	0	5	1	0	0	5	21	4	50
11 月	2	2	1	1	0	7	0	3	11	21	8	56
12 月	3	3	2	0	4	6	0	0	4	16	3	41
1 月	8	8	4	5	0	17	0	0	8	27	17	94
2 月	2	30	2	0	3	0	0	19	8	24	4	92
3 月	3	49	2	0	5	0	2	3	6	24	10	104
合計	40	228	36	33	43	96	2	39	79	300	94	990

4 八木山つどいの家 事業報告

【はじめに】

地域活動支援センターから生活介護事業へ移行し、1年半が経過する中、利用者数は9名から17名に増加。ホール1室を2グループで展開するため、室内整備や外出との組み合わせ等の調整を試みる。部屋の仕切りが無く、賑やかな空間を苦手とする自閉症や精神の方は戸惑う場面があり、年度後半は、改めて支援体制の見直しと限られた空間の有効活用を検討した。

地域交流室は喫茶店として営業し、定期的にコンサートや学習会等を行ない、地域交流を図った。また、地域行事に参加するため休日開所日を設けたが、秋に集中し慌ただしさは否めず。地域での活動展開、地域行事参加の分散化、地域交流室活用の次なる工夫が課題である。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 議会傍聴や市政出前講座による選挙の取り組みで、期日前投票（市長選・知事選）に出向いて投票する利用者が増えた。
- 社会参加する上での困り事などを話し合い、市長や知事への手紙を通して担当部署へ提起する予定だったが、実施には至らず。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 町内会会長会をはじめ、公園祭り実行委員会やテント設営を手伝う等交流を図った。バザーは、動物園でしょうがいのある方とその家族を招待する日と同日開催にし、フリーマーケットブースやミニコンサートで盛り上げ、来場者で賑わう。
- 地域連携で作成した「八木山まち歩きマップ」を活用した外出をもとに、その写真や記事を事業所通信に掲載し、八木山地区の魅力を積極的に発信した。
- 地域交流室では定期的にコンサートを開催し、地域住民と利用者の交流する機会をつくった。地下鉄駅構内にイベントポスターを毎月のように掲示することで事業所のPRにも有効だった。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 利用者家族のアンケート調査、地域交流室イベントアンケートを実施し、意見をもとに改善を図るよう努めた。
- 八木山市民センターは日常的に行き来し、連携しながら取り組んできた。八木山地域包括支援センターは、地域課題をもとに学習会の講師を依頼し学ぶ機会を設定した。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 休日開所日を設けることで利用実績は増えるが、支援員は振休が必要なために支援体制が手薄になる。更なる利用者増員はスペース上難しい状況にあり、工夫が求められる。
- 地域交流室の安定した運営に向けて、コミュニティーカフェの動向や助成金を視野に情報収集する予定だったが、生活介護を主軸とした地域交流室の在り方を最優先に検討へ。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 内部研修を定例化し、ディスカッションやファシリテーター役の機会を通して、リーダー育成を意識した研修内容とした。
- 外部研修の参加は有効だが、平日は支援体制に影響がでるため、夕方以降の外部研修の参加もあった。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分 類	重点課題	具体的な取り組み	評 価
個別支援計画の推進	・意思決定支援 ・充実した活動の展開	・丁寧に意思確認や意思決定支援を行なう。	意思を尊重し活動を進めるが、合同活動が多くなり、個別化が進まず。
家族との連携	家族との関係性	将来の生活について話し合う。 施設懇談会や行事へ家族参加を促す。	施設懇談会の参加が少ない状況が続く、情報共有が難しい。 少数だが父親の協力者増。
関係機関との連携	健康管理 GHとの情報共有	看護師、嘱託医、主治医との連携 通院同行、GHとの情報交換	看護師（兼務）との情報共有に努める。 ケア会議の実施で連携を図る。
はたらく	作業品のアート化	美術系学生や手芸作家にボランティアとして参画を促す。 手作り市を見物し視野を広げる。	宮城教育大学学生と共に、手芸品を中心に商品開発を進める。
地域への働きかけ	地域交流行事との連携	八木山フェスタの日を休日開所し、コンサート等を開催して、地域イベントを盛り上げる。	地域住民への働きかけは概ね良好。今後、学齢期の交流に工夫を要す。
ボランティア	休日開所日の支援体制	地下鉄沿線大学の学生に向けてボランティアを依頼する。	休日開所日のバザーにて学生の協力得られるが、継続には至らず。

【 事業実施状況等 】

< 会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月 1 回	月予定、課題検討
月案会議	月 1 回	活動計画、グループ活動の調整
職員会議	月 1 回	月予定、委員会報告、協議確認事項
ケース会議	月 1～2 回	個別支援計画の進捗確認、困難事例検討
販売促進会議	月 1 回	商品開発、作業手当、喫茶メニュー、販売会

< 内外部研修 >

内部研修テーマ 家族や本人の視点で福祉を考える 人権・権利・自分らしく生きること 伝達講習会 生活支援を考える 感染症について 交通事故の対応 地域包括ケアを学ぶ など	外部研修 重心学会学術集会市民公開講座 地域福祉セミナー 芸術支援研修会 GH学会全国大会 苦情解決セミナー 調理セミナー 食品衛生責任者講習 BCPセミナー てんかん就労公開講座 発達障害基礎研修 アーチル発達障害講座 相談支援員初任者研修 市団協視察研修 市団協福祉フォーラム 障害者の防災シンポジウム 防災フォーラム など
---	--

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
バザー&フリーマーケット	6 / 3	来場約 100 名	地域交流、手作り品及び保護者会バザー品販売
販売会（生協八木山店）	毎月 15 日（月 1 回）	3 ～ 4 名	手作り品販売
この市とまれ	7 ～ 3 月第 3 土曜日	来場約 10 ～ 20 名	利用者によるミニバザー
八木中祭	9 / 2	12 名	中学生との交流、手作り品販売、保護者会ミニバザー
一丁目公園祭	9 / 30	5 名	手作り品販売、手作り品体験コーナー

新成人を祝う会	1 / 1 1	25 名	新成人のお祝い（家族・関係者）
地域交流室コンサート	毎月開催	来場約 20 名	公益的取り組み、地域交流
手つ学カフェ	9/14, 11/24, 1/31	約 1 2 名	公益的取り組み、地域課題の学習会

< 渉外・他 >

4/16	町内会定期総会・班長会	8/20	1 丁目公園祭り実行委員会
4/27	選挙管理課と打合せ	9/1	八木山中学校文化祭打合せ
5/1	レクリエーション教室打合せ	9/3	町内会班長会
5/7	町内会班長会	10/4	情報誌八木山さんぽ取材
6/21	サックスコンサート打合せ	10/9	町内会班長会
6/28	東北生活文化大学訪問	10/20	ネットワーク会議なごやかネット
6/29	コンサート打合せ	10/31	コンサート打合せ
7/2	町内会班長会	11/17	ネットワーク会議なごやかネット
7/12	行政懇談会	12/7	ふたばの会給食打合せ
7/14	施設見学会（すてーじ仙台）	12/15	視察研修報告会打合せ
8/3	八木山中学校文化祭打合せ	1/14	町内会班長会
8/18	ネットワーク会議なごやかネット	1/14	利用者行方不明捜索

< 見学・訪問者一覧 >

	一般来訪	業者	関係機関	法人内職員	一般見学者	支援学校見学者	他団体見学者	支援学校等実習者	ボランティア
4 月	5	1 0	3	9	0	2	0	0	6
5 月	8	8	2	3	0	0	0	0	3
6 月	7	4	6	3	0	0	0	0	7
7 月	6	1	6	8	0	1	0	0	7
8 月	4	3	1 8	6	0	7	0	0	7
9 月	1	4	4	8	0	5	0	0	8
10 月	9	5	0	4	0	3	0	1	5
11 月	1 5	2	1 0	5	2	1	0	1	7
12 月	1 4	5	6	6	0	1 0	0	0	9
1 月	6	8	9	2	0	0	0	0	6
2 月	6	8	2	5	0	0	3	0	4
3 月	5	2	3	1	0	5	0	0	4
合計	8 6	6 0	6 9	6 0	0	3 4	0	2	7 3

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

5 若林障害者福祉センター(生活介護事業・生活訓練事業) 事業報告

【はじめに】

平成29年度は、利用者の「思いを遂げられるよう」、「望むことをかなえられるよう」個々の状況に応じた支援に取り組んできた。

センターの特性である一定期間支援経過後、他事業所への移行については、2名の利用者が移行している。活動を振り返ると、生活介護における創作的活動では「仙台市障害者による書道・写真・絵画コンテスト」の絵画の部において金賞を受賞した。また、生活訓練では、センターに通所するまで福祉サービスを利用したことのない利用者が2年の期間を経て、就労継続支援B型事業所に移行したことは、一定の成果と考える。

一方、目標としていた「しょうがいのある人の理解を深める」取り組みについては、センター内の行事への参加や市街地はもとより周辺地域の季節を感じながら散歩する途中で多くの方々と触れ合うよう取り組んできた。理解の深まりへの検証は実感として捉え難い問題ではあるが、これからも様々な機会・方法を講じながら、継続的に取り組んで行かなければならない課題であると考えている。

【経営ビジョン実現に向けた取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 本人の意思決定や感情を大切にし、支援者個々が日常支援の中やセンターを取り巻く環境や社会情勢の把握に努めながら、権利擁護について自分自身の問題ととらえ、センター内他団体と各団体の事例を用いた研修会を開催することで権利擁護意識の醸成を図った。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- センター内に関わらず、各種イベントや外出活動で街の中を自由に行動することで、多くの方々と触れ合い社会参加意識の向上を図り、幅広く交流の機会を持つように努めた。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- センターを運営する四つの団体と共同して「若林区民まつり」に参加し、生活介護活動を知ってもらうため利用者の作品展示コーナーを設け、事業への理解に努めるとともに法人理念の浸透を図った。

○ 財政基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- センターは、市の委託料により事業を展開している事もあり、職員（支援者）が法人内の他事業所に異動しても常にコストを意識し、経費のムダを省く行動を身に着けるよう努めた。

○ 人材育成及び研修等への取り組み

経営ビジョン5

- 法人内「人材育成プラン」に基づき、個々の職員（支援者）に必要とされる基本的知識や支援力向上のため或いは利用者との関係の中で求められる技能の習得に努め、内部研修のみならず外部の専門研修に派遣し、その習熟を図った。

【 その他重点的な取り組みと成果等 】

内 容	具体的な取り組み	目標とする成果等
(１) 本人中心の個別支援計画の推進	一人の支援者からの目線だけではなく、複数の視点から計画を作成する	本人主体の充実した計画を組むことができた
(２) しょうがいのある方の理解を深める	センター内看護師と連携し、医療的ケアの必要な方も、外出活動を行い幅広い方々と交流に努める	支援員としての必要な技術を習得し、外出活動を多く持ち、多くの方々と触れ合う事ができた
(３) 高齢化に向けての健康への配慮	利用者・家族と通院同行を行うことで健康面について共有する	利用者の健康状態について主治医の診断を家族とともに共有することで安心感をもって暮らすことができた

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
支援会議	1回/月	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など *福祉協会看護師参加
職員会議	1回/月	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
月案会議	1回/月	活動・体制調整、車輛使用予定確認など
センター運営会議	1回/月	各事業報告、センター運営の課題検討、意見交換など
センター広報委員会	1回/月	センター機関誌編集発行、センターまつり企画運営など
センター研修委員会	1回/月	センター内部研修企画・実施など
喀痰行為等安全委員会	1回/月	支援員による喀痰行為検討、実地研修進捗確認など
看護師連絡会	1回/月	福祉協会職員と利用者の健康についての確認や情報交換など
給食連絡会	1回/月	福祉協会職員と給食調整、課題検討など
送迎連絡会	1回/月	福祉協会職員と送迎調整、課題検討など
入浴連絡会	1回/月	福祉協会職員と入浴調整、課題検討など

< 内外部研修 >

・医療的ケア研修 ・医療的ケア事故対応訓練 ・仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修 ・仙台市障害者ケアマネジメントリーダー研修 ・りーの会視察研修(インクルふじ) ・仙台市障福センター医療的ケア研修 ・障害者福祉センター共通研修 ・障害者福祉センター自立訓練生活介護事業担当者研修会	・全国知的障害者福祉関係職員研究大会 ・宮城県社会福祉施設中堅・監督職員研修 ・東北ブロック重症心身障害日中支援協議会 ・療育支援研修会 ・日中活動支援部会全国大会 ・施設職員研修事業中堅者研修 ・全国障害者生活支援研究セミナー ・若林区自立支援協議会実務者ネットワーク会議
---	--

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	目的など
センターまつり	8月20日(1回/年)	まつりを通し障害者福祉の啓発を行い、地域福祉の拠点として障害者の総合的な福祉の促進を図る

ウェルフェア	9月24日(1回/年)	広く障害者福祉についての関心と理解を深めるとともに、しょうがいのある方の社会参加への意欲を高める
若林区民ふるさと祭り	10月15日(1回/年)	若林区内における総合的な交流の場に参加することにより、区民意識の高揚や地域の活性化を図るとともに、安全で安心なコミュニティづくりを目指す
沖野小学校キャップハンディ講座	7月14日(1回/年)	近隣小学校における総合学習にて、しょうがいのある人の講話や体験を通し、障害福祉を広める

< 利用状況等 >

「Ⅳ 参考資料」に掲載

6 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」 事業報告

【はじめに】

H29 年度においては、ゆあらいふにおいては 1 名欠員、すてっぷはうすは専従職員が産休・育休に入って以降 1 名欠員、ぺんたすにおいても 28 年 10 月に 1 名女性職員が異動したままの体制ではあったが、毎月調整会議を行うなどして事業所内で連携・フォローし合うことで、大きく実績やサービスの質を落とさずに取り組んできた。

また、各三事業ともに日々の事業を展開しながら、区自立協やレスパイト連協など事業所間の連携、サロン活動や包括ケア会議などを通じた地域とのつながり、人材の確保と育成にも取り組むことはできた。一方で町内会との連携や求人活動の成果がなかった、経営面において三事業共に赤字状態という課題は残った。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン 1

- 強度行動障害支援者養成研修（基礎）の受講と内部研修における伝達研修の実施
- 権利擁護・虐待防止委員会が主催する内部研修の実施。

（取組・評価）

2 名が無事研修を終了した。内部研修に関しても勤務を調整しつつ参加することができた。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン 2

- サロンスペースの活用し、定期的な趣味講座、貸館事業を実施する。（公益的な取り組み）
- 南光台包括圏域会議への参加を通して南光台地域の現状を理解し、人と人とのつながりを作る。

（取組・評価）

サロンスペースについて、定期的に利用する団体も増えた。その講座や共催した絵画展の参加者の口コミ、通信を通じてアピールなどですること新規の問い合わせも増えた。コミュニティセンターが無料であるためそちらを使っている人も多いが、設備の豊富さと綺麗さでの評判は良い。

また、包括圏域会議は全部参加できたが事業所としての PR は出来ずグループワーク内でのつながりに留まっており、新年度以降の PR 方法は見直しが必要。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン 3

- 南光台通信を発行し、配布の範囲を広げていく。ぴぼっと南光台及び社会福祉法人つどいの家の事業内容を地域に発信する。（年 3 回：4 月 7 月 12 月）

（取組・評価）

上記の通り南光台通信を通じてサロンを知ってもらったなど効果が見られている。散歩中に声を掛けてもらうなど根付きが見える一方で、圏域会議の反応や地域の資料などを見るとまだまだ知られていない印象も強く、来年度は町内会に加盟するなど直接のつながりを作っていく必要がある。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン 4

- インターネット求人や人のつながりを活かした人材募集とヘルプ提供時間数の拡充

内 容	2016 年度実績	2017 年度目標	数値目標等
新規登録ヘルパーの雇用	1 名	5 名	—
ヘルプの提供時間数	12,000 時間（※GH 提供を含む）	14,000 時間（※GH 提供を含む）	—

(取組・評価)

人材募集に関しては、頻繁なホームページの更新、ジョブアカデミー（ホームヘルパー養成校）での定期講座、マスク付チラシ配り、公用車へ募集マグネットの添付しての PR を自衛隊やパーソナルサポートセンター（仙台・南部）やジョブスタ、若者サポートセンターなど新たな就労支援団体ともつながり実習者や見学希望者の受け入れを行なった。しかし、採用まではいらず、就労希望者の話などを聞くと登録ヘルパーの確保には限界を感じた。

また、2 月からはヘルパー事業での変形労働時間制を導入し、時間外手当の削減や計画的事務時間の確保など効率的な労働の実現に取り組んだ。

なお、ヘルパー事業において特定事業所加算の取得を模索してきたが、日々の業務の報告や毎月の計画的な研修への全員参加など高いハードルも多く、GH でのヘルパー利用方法(経過措置の継続かどうか)が年度末まで見えなかったこともあり法人としての事業計画も不明だったため)が明確にされなかったこともあり、取得には至らず、30 年度に相談事業と合わせて再度模索していく。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン 5

- 年 3 回の内部研修実施。また、実務の中で職員相互の指導助言を促進する。
- 『ぺんたす』における個別の研修計画策定に向けた取り組みを始める。(書式と運用を整える)

(取組・評価)

内部研修は三度しか行えなかった。また、研修案内は適宜行っていたものの計画的かつ勤務を調整しての参加しやすい管火曜作りを伴っての傘下環境を整えるまでは出来なかった。

一方で回覧する形での福祉の情勢や興味深い記事などの情報提供は行った。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	目標とする成果等
(1) 公用車管理	車輛日常点検の実施	車輛の維持管理の徹底 故障などトラブルの未然防止
(2) 防災	事業棟からの出火を想定した防災訓練を年 3 回実施する。内 1 回は法人内職員を含む登録介護人を対象として実施する。	事業所の火災通報の仕組みと流れ、防災時の対応を共有する
(3) サロン活動	5 月から 12 月にかけて毎月 1 回の趣味講座を開催する。	南光台 3 丁目地区に住む方々の居場所・活躍の場づくり（主には高齢者の方々）

(取組・評価)

公用車管理においては毎日ランプ系の点検やボンネットを開けての確認を行なった。しかし、大きな異常が見られなかったことや、いつの間にか車に傷がついていて発覚が遅れることも数回あった。

防災に関しては、すてっぷはうすを中心に 3 度訓練を行った。特に、連絡系と脳の確認や防災物品の充実には力を入れた。一方で、無線のホームとのやり取りに課題が残り今後修正が必要。

サロンは既述のため省略。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	毎月 1 回 (年度末は月 2 回実施)	参加：管理者・事務員・各事業の主任が参加 内容：各事業の現状共有・課題検討・事業所としての意思決定
職員会議	毎月 1 回	参加：全職員（※登録ヘルパーは除く） 内容：会議や研修の情報共有
ぺんたす会議	毎月 1 回	参加：ホームヘルプサービスぺんたす 職員 内容：ホームヘルプサービスにおける課題検討・情報共有
ぺんたす運営会議	毎月 1 回	参加：管理者・事務員・サービス提供責任者 内容：ホームヘルプサービスにおける利用実績の確認と分析 試算表の作成や事業方針の検討
安全委員会	毎月 1 回	参加：管理者・サービス提供責任者・医療的ケアを行なう職員 内容：医療的ケアを実施している利用者の状況共有・利用者個々のケアマニュアルの作成

※その他、年度途中よりすてっぷ・はうすの人員不足を補うため、月末にすてっぷはうす調整会議を 10 月より臨時で開設、継続開催した。

< 内外部研修 >

・平成 29 年 6 月 29 日	： 行方不明訓練
・平成 29 年 9 月 28 日	： 苦情対応について
・平成 29 年 2 月 22 日	： 火災時の対応について

< 行事等 >

すてっぷサロン 貸館事業	貸出 全 103 回 延べ利用者数 約 950 名	サロンスペースを活用し、貸館事業を実施。認知症サポーター養成講座、趣味の教室（こぎん刺しやお包みの会、三味線講座）、家族の勉強会が行われていた。 また、共催イベントとして四肢麻痺あり口で絵をかく方の絵画展なども開催した。
-----------------	------------------------------	---

※すてっぷサロンは、共生型福祉施設整備事業の理念に則り、住民相互の交流や学びの場を目的として開催した。また、併せて貸館事業も実施。（いずれも公益的な事業として実施）

< 渉外・他 >

5/11 南光台地域包括圏域会議①	11/9 南光台地域包括圏域会議③
8/10 南光台地域包括圏域会議②	2/8 南光台地域包括圏域会議④

7 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」 事業報告

【 はじめに 】

相談支援事業は、年々相談内容が多様化・複雑化していることに加え、青葉区というエリアの特徴もあり件数も増加の一途を辿っています。昨年度から計画作成の件数を押さえてきましたが、キャパシティを大きく超えた状況の中で相談員一人ひとりに過重な業務がかかる状況が続いています。加えて、今年度は相談員4名中3名の入れ代わりがあり、相談体制の不安定な中で職員の疲弊を招いてしまったことは、管理者として大いに反省をしているところです。支援体制の強化により、次年度以降の立て直しを図る必要があります。

レスパイト事業は、数年前から続く新規利用者受入ストップの状況の改善を模索しつつ、連絡協議会において要綱改正等の具体的検討を進めてきましたが、2か年を費やしてもなお結論に至らない状況が続いています。事業の本来の役割を再確認しながら、引き続き仙台市担当部局とともに具体的な改善策に向けて話し合いを重ねていく必要があります。

環境整備の面では、長年の懸案であった狭小なとびら事務室に対する改善を仙台市に繰り返し働きかけ、旧やまびこホーム事務所への移動が叶いました。事業運営が少しでも良い環境で出来るよう、今後も種々の働きかけが必要だと思えます。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 権利擁護委員会主催の内部研修を法人内他事業所と企画し参加した。
-

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- はせくら通信については、予定していた時期・回数での発行ができなかった。
- 業務量の増大・職員配置の減少などにより、イベント開催などによる地域住民との交流は希薄になってきている。
-

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 防災訓練など隣接する支倉保育所との連携して行なってきた。
- 相談支援事業所として青葉区の中で一定の役割を担っている。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 委託・補助事業の組み合わせの中で、計画相談における給付費獲得を模索してきたが、業務量とのバランスが課題になっている。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- レスパイト連絡協議会主催の研修会の企画運営を行なった。一方で、介護人連絡会等の企画については、日々の業務に埋もれ思うように実施できなかった。
- 相談体制の変更に伴い、新任相談員への業務引き継ぎやこまめな指導ができない状況が続いた。

＜その他重点項目に対する具体的な取り組みと評価＞

重点課題	具体的取り組み	評価
・相談支援の質の向上	・OJT や研修参加により全体のスキルアップを図る。	・研修案内、市の指定研修の受講は行えたが、個人に合わせて研修計画を作成するところまでは至らず。
・青葉区における地域づくりへの貢献	・区や委託・指定相談支援事業所と連携を通して市への課題提起を行う。 ・青葉区自立支援協議会への主体的な参加	・相談員の入れ替えの影響もあり、年度前半は区自立支援協議会への参画もままならず。法人内相談事業所よりフォローをもらいながら、年度後半からは参加できるように。
・サービス等利用計画作成	・他指定事業所への計画作成依頼とケース移行 ・計画作成を通して見えてきた地域課題の抽出	・ケース移行や地域課題の抽出までの具体的余裕がない状況が続いた。
・事業内の情報及び支援の方向性の共有	・相談員ミーティング、事例検討会議の実施 ・外部研修への参加	・定期の相談員ミーティングは実施。細かい支援方針など検討の方法は工夫が必要。
・事業内の情報共有	・利用状況、利用者・介護人の状況、環境整備等の共有など	・専任スタッフ、介護人と密に行うことが出来た。
・職員、介護人の質の向上と人材確保	・法人内レスパイト事業所と協働し、介護人を対象とした研修の実施 ・ボランティアサークルと連携し、イベントの開催 ・近隣への介護人募集チラシの設置	・法人内の介護人連絡会・研修会の開催について課題が残った。コーディネーター同士が打ち合わせのできる状況が必要。 ・ボランティアサークルとの連携は海賊したが、介護人募集の具体的動きには至らず。
・行政や他事業所間との連携	・レスパイト連絡協議会への参加と連携。運営上の課題を整理 ・課題を連絡協議会から行政へ提起し、共に考えていく	・継続的に連絡協議会において改善に向けた検討を続けてきたものの、具体的改善には至らず。
・環境整備	・居室や送迎車の管理、台所、トイレ、浴室の衛生管理、必要備品整備、薬品等の適切保管を行なう。	・環境整備には意識的に取り組めた。年度後半に支援体制が増えたが、環境整備についての引継ぎも行え、継続できている。

【 事業実施状況等 】

＜ 諸会議 ＞

会議名	開催頻度	内容
とびらミーティング	週 1 回	ケースレビュー、支援方針検討
とびらケース検討会議	随時	よりこまめな支援方針の検討を行う
とびら全ケースレビュー	年 2 回	全ケースの状況を確認、終結の検討、ケースの中断の防止
だいちミーティング	随時	情報共有と支援方針検討
チーフ会議	月 1 回	管理者、総務、相談、レスパイトで情報共有
職員会議	月 1 回	全職員で情報共有と協議事項検討

＜ 内外部研修 ＞

・法人権利擁護研修（年 2 回） ・相談支援者研修（全国・東北ブロック） ・レスパイト連絡協議会研修（年 2 回）	・法人職員研修（非常勤研修、各階級対象研修等） ・サポネットあおば（月 2 ～ 3 回） ・仙台市主催各ケアマネジメント研修 ほか
---	---

＜ 行事等 ＞

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
レスパイト) そらいイベント	年 3 回	約 30 名	大学サークル活動との協働

＜利用状況等＞ 「 IV 参考資料 」に掲載

8 地域生活サポートセンター「ピボット若林」 事業報告

【はじめに】

ベースとなる支援の内容については、安定した取り組みができた中で改めて業務全体の整理をしつつ実績等を意識しながら運営を進めてきた。レスパイト事業では、福祉有償運送事業の廃止と体制強化により実績としては 9090 時間を超える結果が得られた。イベント開催やニーズの掘り起こし、そして新規利用登録の見直しなどを行いながら膠着していた利用状況や実績に動きができたことはよかったが、今年度プロジェクト化して取り組んできたレスパイトの二か所での実施現状改善には至らなかった。ヘルプ事業は、ぺんたすへの利用者移行などに伴い実績はダウンしている。体制的に対応可能な中で新規の受け入れも行ってきたが、登録ヘルパー等の体制強化が進まず目標達成には至らなかった。相談事業は、計画相談と委託相談数のバランスを取りながら進めてきた。委託相談での時間を要するケース対応と計画相談事業所が不足する中での計画相談の新規受け入れが求められるもこれ以上の受け入れ対応は限界にきている。また、市や区の障害者自立支援協議会等々の役割も大きく多くの時間を割いてきている。相談事業全体の業務量が膨れ上がっている中で相談事業の在り方自体の整理がずっと続いている現状がある。

29 年度も経営的な課題解決には至らなかった。グループホームへのヘルパー派遣課題やレスパイトの介護人不足、制度としての報酬の低さなどなかなか難しい課題が山積している。法人全体として根本的な事業評価と事業展開や整理が必要かもしれない。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営 V 1

- 相談事業としての虐待対応マニュアル作成に至らず。
- 権利擁護の意識を高めたことで見逃ししやすい案件についても意識できたことはよかった。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営 V 2

- 会報発行箇所を増やしたり、定期の行事やイベント参加等しっかり参加することができた。
- 管理を徹底した成果として地域からの苦情等はみられなかった。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営 V 3

- ピボット若林再整備プロジェクト会議自体が思うように進まず進展はなかった。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営 V 4

- 登録ヘルパー一名増員。新規利用登録もあったがぺんたす移動もあり利用者減員。
- レスパイト実績は体制強化に伴い 8030 時間目標から 9090 時間超えの実績となる。
- 相談の委託は 60 人・述べ 1000 回目標で 71 人・述べ 2000 回越え実績、計画は四人体制目標だったため数字伸びず三名体制で実施してきた数字となる。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営 V 5

- 各自からの参加希望取りを行い計画的研修参加として取り組んだ。9 割方の研修参加はみられたが、業務調整できずまったく研修に参加できなかった職員も見られた。
- 介護人や登録ヘルパーへの研修や必要事項の周知確認等は継続的に取り組めた。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

	内容	具体的取り組み	目標とする成果	実績と結果
1	世話人、ヘルパー求人	求人活動の強化	常勤減員での安定運営	チラシ配布等の成果はみられず。 ・求人サイトや事業所活用が有効だったが無資格者や常勤希望が多く雇用まで至らず。
2	居宅介護特定事業所加算整備	加算要件の整備	収入増と人材管理の向上	居住派遣も対象職員になるので日々のやり取りや研修等の整備に課題が見られ具体的な取り組みに至らず。
3	区事理列支援協議会参画	地域課題の抽出と整備、相談機能強化及び連携	若林区内の課題改善に向けて組織的な強化と連携が高まる。	目的確認はされたがなかなか進まず。相談機能の強化と連携は年々進んでいる。
4	レスパイト連絡協議会での事業精査	現制度の見直し、事業所間の連携	新規受け入れが可能、安定した運営	検討してきたが結果が出ず。翌年度持ち越し。事業所内での待機者リストを解消し新規受入検討を図っている。
5	福祉有償運送事業の精査	更新有無の検証	業務の是正	九月を持って廃止。廃止後のクレームや要望は特になかった。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月一回	予定、各事業進捗、会議・委員会報告、他
チーフ会議①	各月一回	P 若全体確認事項、各事業進捗、法人関連報告 等
チーフ会議②	各月一回	ひやりはっと検証、チーフ会議①残り案件等
各事業会議	各月一回	前月実績確認、確認事項、ヒヤリ確認、ケース関連等
事務ミーティング	月一回	環境や備品等・経費・労務・情報管理関係の確認
ケースレビュー、事例検討	レビュー月二回 事例検討会月一回	相談員が個別に対応しているケースについて定期的にチーム内で共有し確認及び検討を行っている。
サビ責ミーティング	月一回	サービス管理責任者二名で事業全般の対応調整と整理検討を行っている。
区自立協運営会議	月一回	区自立支援協議会の運営に関する会議（事務局会議）
区相談実務者ネットワーク会議	年二回	区の障害福祉関係者が集い、顔の見える関係をつくりながら各種情報共有と課題解決に向けて交流を図る。
区障害者相談員連絡会	月一回	相談員が情報共有、事例検討、研修、課題抽出等を行い、地域課題等を解決していけるための取り組みの場。
市自立協	不定期／年数回	市障害者自立支援協議会内の部会傍聴により情報収集。
レスパイト事業連絡協議会	随時開催	研修委員会と政策検討委員会に分かれてレスパイト事業の課題と人材育成に取り組んでいる。全体会として連絡会がある。

ピボット若林再整備プロジェクト会議	年 5 回	レスパイト事業が二か所で実施されている現状の解決とサポートセンターの今後の展開等含めた再整備を検討してきた。
-------------------	-------	--

< 内外部研修 >

・法人企画研修 ・精神保健福祉基礎講座 1 名 ・防火管理者講習 2 名 ・財務ソフト研修 1 名 ・精神保健福祉初任者研修 1 名 ・O J T 指導者研修 2 名 ・市ケアマネリーダー研修 2 名 ・市ケアマネ基礎研 1 名 ・アーチル基礎講座 3 名 ・市社協主催クレーム研修 1 名 ・G H 全体研修会／兼務職員参加 ・行動障害研修 2 名 ・てんかん研修 1 名 ・G H 全国大会 2 名 ・経営会計研修 1 名 ・福祉人材確保セミナー 1 名 ・相談支援専門員初任者研修 2 名 ・苦情に関する研修会 1 名 ・レスパイト連協職員研修 4 名 ・相談サブファシリテーター研修 1 名 ・全国相談支援ネットワーク研修大会 1 名 ・基幹相談支援センター全国研修会 1 名 ・相談支援初任研② 2 名 ・権利擁護 G H 内部研 4 名	・相談自己評価のに関する研修 ・高次能研修 1 名 ・重心学会自主参加 ・市ケアマネ後期研修 1 名 ・安全運転管理者講習会 1 名 ・採用力向上セミナー 1 名 ・これからの福祉を考える研究会 1 名 ・自閉症協会主催研修／自主参加 ・社協主催／地域福祉セミナー 4 名 ・ヘルプ視察研修／ぱるけ ・登録ヘルパー外部研修／法人内事業所見学 ・児発管研修 1 名 ・小児慢性特定疾患医療講演会 ・虐待対応専門チーム研修 1 名 ・相談スキルアップ研 1 名 ・相談リーダー研 1 名 ・発達障害事例研究会 1 名 ・てんかん医療講演会自主参加 ・リスクマネジメント研修 1 名 ・相談支援現任研 3 名 ・呼吸器疾患に関する基礎知識と在宅酸素療法の理解 2 名 ・地域福祉フォーラム 1 名 ・市団協福祉講座② 1 名
---	---

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
子供会資源回収参加	年五回	2, 3 名	地域貢献と町内会会員として参加
地域防災総合訓練	年一回	0 名	体制合わず不参加
宮城の萩大通り清掃	年二回	2 名	地域貢献
区班総会と側溝清掃	年一回	3 名	町内会会員と役割としての対応。
P 若防災訓練	年四回	10 名程度	事業所内の防災に関する備えとして
若林区民祭り	年一回	数名	区自立協ブース参加あり。若区みんつく祭り継続取り組みとして。
法人設立 25 周年企画	各随時	各	ウォーキング企画(7 名)、ひまわり感謝企画(地域へ種配布)、スタッフジャンパー作成(イベント参加アピールとして)、協賛、広告依頼(約 30 か所)

< 渉外・他 > ※地域や法人行事等は含まず。

4/14	相談室扉修理	10/15	若林区民祭り
4/21	南小泉東文化町内会総会	10/27	消防署立会い訓練
5/19	レスパイト連協総会	11/2	財務ソフト講義
5/25	緊急対応調査説明会	11/24	リンナイ点検

6/3	移動ネットみやぎ理事会	11/30	採用面談一名
6/19	消防署査察	12/15	ブォクシー廃車
6/21	連合保護者会館内清掃	12/19	採用面接1名
6/22	シロアリ駆除散布	1/12	業者廃品回収
7/12	市行政懇談会	2/6.7	防災設備用電話回線工事二か所
7/22	移動ネットみやぎ総会	2/24	行方不明発生
7/26	法人内部点検	3/13	防災設備法定点検②
7/31	防災法定点検	3/15	自火報通報装置設置工事二か所
8/23	サーバー更新による交換作業	3/19	集団指導監査二名参加
8/30	学校訪問／東北文化、医療秘書専	3/25	区班総会及び側溝清掃
9/5	新職員入職オリエンテーション	3/26	消防署設備設置検査二か所
9/19	見学者1名	点検	フロン点検年四回
9/25	若林区ネットワーク会議	地域	近隣話し合い年三回
9/27	学校説明会／東北文化大		

< 見学・訪問者一覧 >

来 訪 者										
実施月	見 学 者	実 習 者	一般来訪	利用・家族	業者関係	関係機関	地域関係	法 人 内	寄付・寄贈	小 計
4月	1	0	0	5	20	10	7	2	1	46
5月	0	0	0	5	12	7	4	7	5	40
6月	0	0	0	11	7	11	0	18	2	49
7月	1	0	1	5	4	5	4	8	2	30
8月	2	1	0	5	9	6	1	6	1	31
9月	0	0	1	36	8	8	0	1	2	56
10月	0	0	1	17	2	12	1	4	2	39
11月	1	1	0	16	1	8	1	2	2	32
12月	1	0	1	8	11	6	4	0	3	34
1月	1	0	0	16	12	7	4	0	0	40
2月	1	0	0	10	10	7	2	1	0	31
3月	0	1	2	11	5	6	3	1	2	31
合計	8	3	6	145	101	93	31	50	22	459

※見学欄に面接者含む。寄付寄贈に飲食物は含まず。利用者と一般、見学、実習以外は要件でカウントしている。

< 利用状況等 >

「Ⅳ 参考資料」に掲載

9 グループホーム（共同生活援助事業） 事業報告

【 はじめに 】

昨年度、新たにグループホームにじいろを沖野地区に開設しましたが、夜勤者等の職員の確保がとてつもない状況のため、日々、法人内事業所全体で職員体制のバックアップをしましたが、今年度も十分な宿泊日数を提供できず、3泊4日の宿泊となりました。次年度は4泊5日の実施に向け、職員体制等の調整に努めたいと思います。職員の人材の確保については、法人全体で求人チラシ等の配布を行っていますが、なかなか充足には至っていません。グループホーム全体で職員の確保が大きな課題となっています。また、職員の育成も課題のひとつとなりますが、スキルアップのため各ホーム職員会議及び全体職員研修会を実施し、職員間の情報共有と支援に対する意識向上に努めました。特に毎月の職員会議においては内部研修を実施しました。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン 1

- 各ホーム職員会議や職員全体研修会において、日々の支援の振り返りをする機会を設ける。
入居者への対応（プライバシーや呼称等）について、職員全体研修会において「1問1答自己チェックリスト」を活用し、職員自身の日々の支援の振り返りを行いました。さらに、職員全体研修後の各ホーム職員会議では、グループホームでのエピソードをもとに、あらためて支援の振り返りを行い、どのような関わりがよいのか意見交換する機会を設けました。

- 毎月、入居者懇談会を開催し、入居者の声をホーム運営にいかす。
入居者懇談会は、入居者同士で各ホームの様子を聞き、ホームで困っていること等を話題にする機会となっています。「グループホームでいきいきと」（日本 GH 学会）を活用しながら、グループホームでの暮らしについて質問する機会を作り、懇談会で出された意見を各ホームに伝え、入居者の声が反映されるように取り組みました。今後も入居者一人ひとりに内容を分かりやすく伝えるために、写真等の準備をしっかりと行っていききたいと思います。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン 2

- 町内会活動に参加し、地域住民同士のつながりをもつ。
一住民として、地域とつながることができるよう町内会活動に参加し、地域社会における障害者理解に努めました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン 3

- 大規模震災や火災を想定した避難訓練を計画的に実施する。
- グループホーム通信（「ももたろう通信」）を発行し、地域社会へ情報発信をする。
各ホームにおいて、消防訓練を年2回以上実施し、夜間を想定した訓練を実施しました。グループホーム通信（「ももたろう通信」）を年3回発行し、グループホームの入居者の生活等について情報の発信に努めました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン 4

- グループホーム運営のあり方に関する検討を行う（居宅介護利用廃止後の運営、労働形態の見直し等）。

グループホームにおける居宅介護利用については、経過措置がさらに3年間延長となり、引き続き利用可能となりました。しかしながら、有期限であることに変わりはありませんので、居宅介護利

用の恒久化について今後も要望をしていきたいと思います。

夜勤の勤務に関しては、長時間勤務回避のために三交替制の勤務形態についてシフトを検討しています。三交替制勤務導入に向けては、十分な職員数の確保が必要となり、現状ではすぐに実施することは難しい状況にありますが、開始できる部分から進めていきたいと思っています。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 実際の職場での実務や外部研修参加を通して、スキルアップを図る。
- 各ホーム職員会議及び職員全体研修会（年2回）を実施する。

グループホーム職員は勤務形態上、なかなか外部の研修に参加する機会が少ないため、毎月の職員会議において前半の時間に内部研修（内容は下記参照）を実施し、スキルアップに努めました。

グループホーム全体の職員を対象とした研修を年3回（6月、9月、2月）実施しました。また、全職員（非常勤）を対象に担当するグループホーム以外での現場研修を実施し、他のグループホーム入居者の様子を知り、職員と情報交換をもつことができました。同じような事故が繰り返し起きてしまうため、特に服薬に関しては定期的に事故の情報を共有することで、振り返りと今後の対策を話し合う機会を設けました。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 本人中心の個別支援計画の推進	各ホーム職員会議の定期的開催及びケース検討会の実施	各ホーム職員会議にて、個別支援計画の内容について情報共有ができた。しかしながら、日々の記録に活かすことができていない面があり、記録のポイントに関する情報共有が必要である。
(2) 通所施設等との連携強化	日々の入居者状況の連絡（健面等の引継ぎ）	日々のグループホームと通所施設での連絡（引継ぎ）以外に通所施設 NS、訪問看護 NS との話し合いにより、入居者の健康面の実態把握に関する情報共有ができた。
(3) グループホーム管理センターの開設準備	居住支援センター創設に向けた検討	グループホーム管理センターについては、ピボット若林移転後の建物を活用する等の方向性が示されたが、具体的な動きはできなかった。
(4) 他法人 GH 等との連携	GH に関する勉強会、研修会への参加	障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会仙台大会（平成 29 年 7 月 22 日～23 日）の運営メンバーとして職員、入居者が大会運営に参画した。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月 2 回	法人、GH 運営の方向性、事業報告、課題検討等
職員会議	月 1 回	GH 運営の方向性、課題検討、意見交換、内部研修等
各ホームミーティング	月 1 回	諸会議報告、個別支援計画状況確認、意見交換等
各ホーム職員会議	隔月 1 回	入居者状況把握、個別支援計画確認、意見交換等
個別支援計画会議	年度初/中間/ 年度末	個別支援計画立案、見直し、検討等
家族懇談会	年 2 回程度	GH 全体状況確認、入居者状況把握、意見交換等
南部/北部/にじいろグループホーム連絡会	年 3 回程度	各事業（GH/通所/ヘルプ/相談）情報共有、意見交換等
入居者懇談会	月 1 回	意見交換、入居者イベント企画等

※ その他法人内各種委員会へ委員会担当が参加

< 内部研修 >

グループホーム職員会議 ・NNN ドキュメントより「わたしの話をきいてほしい（相模原事件後のびわこ学園を取材）（5 月） ・「世話人として大切にしていることについて意見交換」（6 月） ・「ダウン症について～退行と高齢期の支援」（7 月） ・「発達障害について～特性の理解」（8 月） ・NHK クローズアップ現代より「相模原事件のその後」（10 月） ・「すてーじ」（K.T さん）（S.T さん）（11 月） ・研修報告会（12 月） ・理解と対応～事例検討（O.K さん）（M.M さん）（1 月） ・今年度の事故の振り返り～事故報告集計より（3 月）	グループホーム職員全体研修会 ・第 1 回職員全体研修会（6/22.A 型センターにて）「入居者と世話人の思いが一致しないときの支援について（グループワーク）」 ・第 1 回権利擁護委員会主催内部研修（9/29.A 型センターにて）「自分らしく生きていると思うこと/されて嫌なこと/理解されなかったこと（個人ワーク）及び支援において大切にしたいことなど（グループワーク）」 ・第 2 回職員全体研修会（兼第 2 回権利擁護委員会主催内部研修）（2/14.A 型センターにて）「グループホームでみられるエピソードについてのロールプレイ（グループワーク）/自己チェックリストを活用した支援の振り返り」 ・法人全体非常勤職員等研修会（6/30.コペルにて）
--	---

< 外部研修 >

・アーチル発達障害基礎講座（高階） ・甲種防火管理者講習（後藤） ・重度障害者が地域で暮らすためには～北海道はるにれの里に学ぶ（宮本、佐藤亮、嶋、広島、八鍬） ・第 14 回日本 GH 学会全国大会 in 仙台（飯田、加藤、菅原、斎藤） ・宮城県福祉協会地域支援セミナー（嶋、広島、後藤、今野） ・第 15 回地域福祉セミナー（飯田） ・県社協メンタルヘルス研修（今野）	・サービス管理責任者研修（地域分野）（後藤） ・サービス管理責任者研修（児童分野）（加藤） ・リーの会研修会（加藤、東海林、富沢、菅原） ・アーチル発達障害特別講座（日下、増本、青田） ・県社協アンガーマネジメント研修（高階、八鍬、今野） ・仙台つどいの家「すてーじ」 ・第 9 回千葉県グループホーム大会（飯田） ・障害者の虐待防止及び差別解消のための権利擁護に関する研修会（加藤） ・強度行動障害支援者養成研修（基礎編）（宮本） ・仙団協福祉フォーラム（菅原） ・仙台市社協経営セミナー（飯田） ・仙台市障害者グループホーム研修会（飯田、加藤、今井、後藤）
---	---

IV 參考資料

1 日中活動支援部門 利用実績

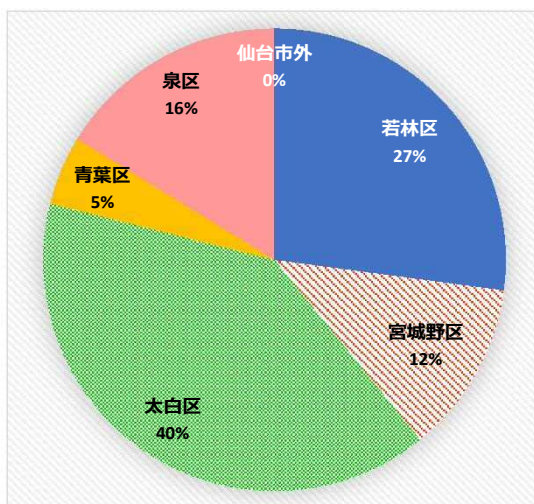
■利用者出欠状況

平成29年4月1日～平成30年3月31日

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		開所日数	19	21	21	21	21	21	21	23	21	19	19	21	248
仙台つどいの家	仙台	利用予定者数	703	760	777	750	779	756	784	804	755	703	703	782	9,056
		実利用者数	615	673	693	669	657	654	648	655	644	584	573	680	7,745
		利用率	87.5%	88.6%	89.2%	89.2%	84.3%	86.5%	82.7%	81.5%	85.3%	83.1%	81.5%	87.0%	85.5%
	さんしょ	利用予定者数	123	124	137	136	138	136	136	136	131	123	123	138	1,581
		実利用者数	114	113	116	114	119	110	109	113	105	108	109	129	1,359
		利用率	92.7%	91.1%	84.7%	83.8%	86.2%	80.9%	80.1%	83.1%	80.2%	87.8%	88.6%	93.5%	86.0%
	合計	利用予定者数	826	884	914	886	917	892	920	940	886	826	826	920	10,637
		実利用者数	729	786	809	783	776	764	757	768	749	692	682	809	9,104
		利用率	88.3%	88.9%	88.5%	88.4%	84.6%	85.7%	82.3%	81.7%	84.5%	83.8%	82.6%	87.9%	85.6%
		一日平均	38.37	37.43	38.52	37.29	36.95	36.38	36.05	33.39	35.67	36.42	35.89	38.52	36.71
つどいの家・コベル	コベル①	利用予定者数	343	394	395	366	388	390	401	378	382	366	378	408	4,589
		実利用者数	333	377	365	345	360	379	374	353	370	332	321	336	4,245
		利用率	97.1%	95.7%	92.4%	94.3%	92.8%	97.2%	93.3%	93.4%	96.9%	90.7%	84.9%	82.4%	92.5%
	コベル②	利用予定者数	357	411	406	394	387	394	403	394	384	385	385	418	4,718
		実利用者数	338	382	387	356	358	363	339	336	360	338	338	374	4,269
		利用率	94.7%	92.9%	95.3%	90.4%	92.5%	92.1%	84.1%	85.3%	93.8%	87.8%	87.8%	89.5%	90.5%
	オリザ	利用予定者数	87	99	99	97	94	98	103	97	98	93	92	101	1,158
		実利用者数	52	54	57	56	46	51	42	32	30	35	36	32	523
		利用率	59.8%	54.5%	57.6%	57.7%	48.9%	52.0%	40.8%	33.0%	30.6%	37.6%	39.1%	31.7%	45.2%
	合計	利用予定者数	787	904	900	857	869	882	907	869	864	844	855	927	10,465
		実利用者数	723	813	809	757	764	793	755	721	760	705	695	742	9,037
		利用率	91.9%	89.9%	89.9%	88.3%	87.9%	89.9%	83.2%	83.0%	88.0%	83.5%	81.3%	80.0%	86.4%
		一日平均	36.15	38.71	38.52	36.05	36.38	37.76	35.95	34.33	38.00	33.57	34.75	33.73	36.15
つどいの家・アプリ	アプリ	利用予定者数	577	668	688	637	636	635	651	634	633	598	597	656	7,610
		実利用者数	498	583	618	600	573	604	613	599	602	537	537	620	6,984
		利用率	86.3%	87.3%	89.8%	94.2%	90.1%	95.1%	94.2%	94.5%	95.1%	89.8%	89.9%	94.5%	91.8%
	ミント	利用予定者数	104	121	129	122	122	129	123	121	117	117	116	128	1,449
		実利用者数	70	89	107	112	111	109	115	86	91	111	111	123	1,235
		利用率	67.3%	73.6%	82.9%	91.8%	91.0%	84.5%	93.5%	71.1%	77.8%	94.9%	95.7%	96.1%	85.2%
	合計	利用予定者数	681	789	817	759	758	764	774	755	750	715	713	784	9,059
		実利用者数	568	672	725	712	684	713	728	685	693	648	648	743	8,219
		利用率	83.4%	85.2%	88.7%	93.8%	90.2%	93.3%	94.1%	90.7%	92.4%	90.6%	90.9%	94.8%	90.7%
		一日平均	31.56	32.00	32.95	33.90	32.57	33.95	33.09	32.62	33.00	32.40	32.40	33.77	32.88
つどい八木の山家	八木山	利用予定者数	313	328	362	324	343	358	346	334	324	311	311	341	3,995
		実利用者数	264	286	314	276	288	269	273	283	271	264	252	293	3,333
		利用率	84.3%	87.2%	86.7%	85.2%	84.0%	75.1%	78.9%	84.7%	83.6%	84.9%	81.0%	85.9%	83.4%
		一日平均	13.89	14.30	14.27	13.80	13.71	12.23	12.41	13.48	13.55	13.89	13.26	13.95	13.55
		開所日数	19	20	22	20	21	22	22	21	20	19	19	21	246
若林障害者福祉センター	生活介護	利用予定者数	80	82	91	88	97	92	89	84	81	81	84	93	1,042
		実利用者数	64	58	68	64	65	70	65	58	58	61	57	66	754
		利用率	80.0%	70.7%	74.7%	72.7%	67.0%	76.1%	73.0%	69.0%	71.6%	75.3%	67.9%	71.0%	72.4%
	生活訓練	利用予定者数	9	13	5	4	5	4	4	5	3	3	4	4	63
		実利用者数	9	13	4	3	4	3	4	4	2	2	2	4	54
		利用率	100.0%	100.0%	80.0%	75.0%	80.0%	75.0%	100.0%	80.0%	66.7%	66.7%	50.0%	100.0%	85.7%
	合計	利用予定者数	89	95	96	92	102	96	93	89	84	84	88	97	1,105
		実利用者数	73	71	72	67	69	73	69	62	60	63	59	70	808
		利用率	82.0%	74.7%	75.0%	72.8%	67.6%	76.0%	74.2%	69.7%	71.4%	75.0%	67.0%	72.2%	73.1%
		一日平均	3.48	3.55	3.27	3.19	3.14	3.32	3.29	3.10	3.16	3.32	3.11	3.18	3.26
日中活動部門法人合計		利用予定者数	2,696	3,000	3,089	2,918	2,989	2,992	3,040	2,987	2,908	2,780	2,793	3,069	35,261
		実利用者数	2,357	2,628	2,729	2,595	2,581	2,612	2,582	2,519	2,533	2,372	2,336	2,657	30,501
		利用率	87.4%	87.6%	88.3%	88.9%	86.3%	87.3%	84.9%	84.3%	87.1%	85.3%	83.6%	86.6%	86.5%
		一日平均	92.75	96.05	96.73	94.40	93.19	94.54	91.95	90.21	94.84	90.47	90.70	92.34	93.17
		(1事業所あたり)													

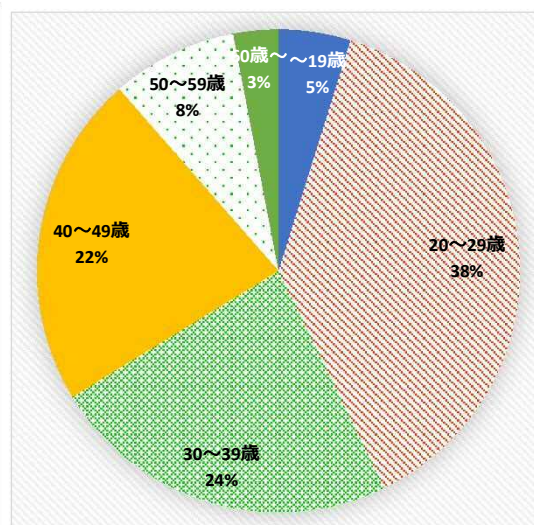
■利用者居住地

		若林区	宮城野区	太白区	青葉区	泉区	仙台市外	合計
つどいの家 仙台	仙台	0	10	0	4	23	0	37
	さんしょ	1	3	0	0	4	0	8
	合計	1	13	0	4	27	0	45
つどいの家 コペルの家	コペル①	11	2	6	0	0	0	19
	コペル②	19	2	5	2	0	0	28
	オリザ	1	2	3	0	0	0	6
	合計	31	6	14	2	0	0	53
つどいの家 アプリの家	アプリ	1	0	31	0	0	0	32
	ミント	0	0	7	0	0	0	7
	合計	1	0	38	0	0	0	39
つどいの家 八木山家	生活介護	2	0	12	2	0	0	16
福祉センター 若林障害者	生活介護	8	1	2	0	0	0	11
	生活訓練	2	0	0	0	0	0	2
	合計	10	1	2	0	0	0	13
法人 通所合計	合計	45	20	66	8	27	0	166



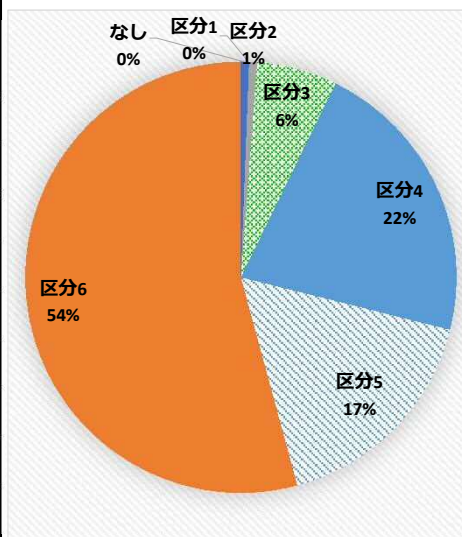
■利用者年齢区分

		～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
仙台 つどいの家	仙台	0	10	9	16	2	0	37
	さんしょ	1	3	0	4	0	0	8
	合計	1	13	9	20	2	0	45
つどいの家 コペルの家	コペル①	1	7	7	2	1	1	19
	コペル②	0	4	9	6	6	3	28
	オリザ	0	3	2	0	1	0	6
	合計	1	14	18	8	8	4	53
つどいの家 アプリの家	アプリ	1	18	5	7	1	0	32
	ミント	0	7	0	0	0	0	7
	合計	1	25	5	7	1	0	39
つどいの家 八木山家	生活介護	3	6	2	2	2	1	16
福祉センター 若林障害者	生活介護	2	5	3	0	1	0	11
	生活訓練	0	0	2	0	0	0	2
	合計	2	5	5	0	1	0	13
法人 通所合計	合計	8	63	39	37	14	5	166



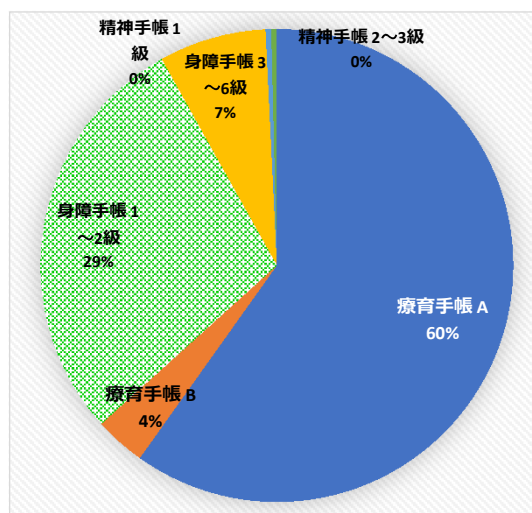
■障害支援区分

		なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
つどいの家 仙台	仙台	0	0	0	3	10	7	17	5.0
	さんしよ	0	0	0	0	0	0	8	6.0
	合計	0	0	0	3	10	7	25	5.2
つどいの家 コペルの家	コペル①	0	0	0	0	8	6	5	4.8
	コペル②	0	0	0	0	5	2	21	5.6
	オリザ	0	0	0	0	0	0	6	6.0
	合計	0	0	0	0	13	8	32	5.4
つどいの家 アプリ	アプリ	0	0	0	1	6	7	18	5.3
	ミント	0	0	0	0	0	0	7	6.0
	合計	0	0	0	1	6	7	25	5.4
つどい八木山家	生活介護	0	0	1	5	4	3	3	4.1
若林障害者 福祉センター	生活介護	0	0	0	0	3	3	5	5.2
	生活訓練	1	0	0	1	0	0	0	3.0
	合計	1	0	0	1	3	3	5	5.0
法人 通所合計	合計	1	0	1	10	36	28	90	5.2



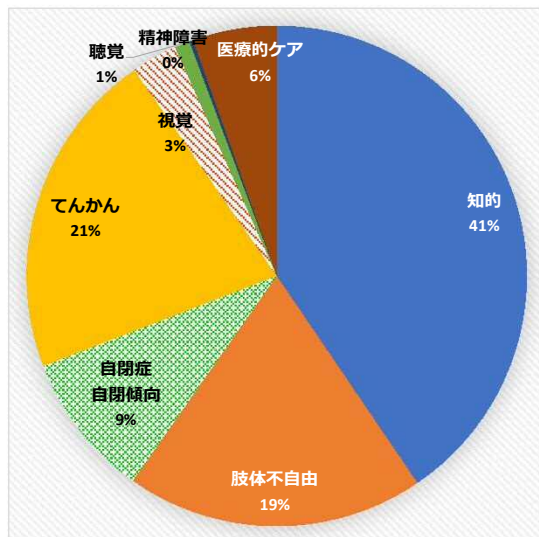
■手帳保持状況

		療育手帳		身障手帳		精神手帳	
		A	B	1級 2級	3級 4級 5級 6級	1級 2級 3級	4級 5級 6級
つどいの家 仙台	仙台	35	2	12	8	0	0
	さんしよ	8	0	8	0	0	0
	合計	43	2	20	8	0	0
つどいの家 コペルの家	コペル①	19	1	1	3	0	0
	コペル②	26	0	16	4	0	0
	オリザ	6	0	6	0	0	0
	合計	51	1	23	7	0	0
つどいの家 アプリ	アプリ	31	1	16	3	0	0
	ミント	7	0	7	0	0	0
	合計	38	1	23	3	0	0
つどい八木山家	生活介護	13	2	3	1	1	1
障害福祉 若林センター	生活介護	10	1	5	0	0	0
	生活訓練	0	2	0	0	0	0
	合計	10	3	5	0	0	0
法人 通所合計	合計	155	9	74	19	1	1



■利用者障害種別

		知的	肢体不自由	自閉傾向 自閉症	てんかん	視覚	聴覚	精神障害	医療的ケア
つと仙 台の家	仙台	37	15	18	19	4	4	0	1
	さんしょ	8	8	1	8	2	0	0	6
	合計	45	23	19	27	6	4	0	7
つとコ ペルの家	コペル①	19	1	1	7	0	0	0	0
	コペル②	26	18	5	18	1	0	0	2
	オリザ	6	6	0	6	0	0	0	6
	合計	51	25	6	31	1	0	0	8
つとア プリの家	アプリ	32	15	9	19	1	0	0	0
	ミント	7	7	0	5	3	0	0	4
	合計	39	22	9	24	4	0	0	4
つと八 木の家	生活介護	16	3	4	4	1	0	2	0
福祉 センター	生活介護	11	5	3	4	1	0	1	3
	生活訓練	2	0	1	0	0	0	0	0
	合計	13	5	4	4	1	0	1	3
法人 通所合計	合計	164	78	38	86	12	4	1	22



2 地域生活支援部門 利用実績

■ すてっぷ・はうす 事業実績

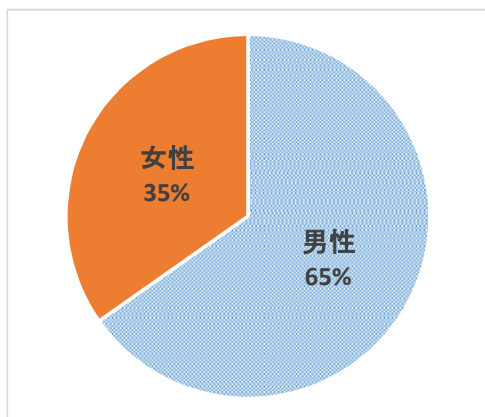
(平成30年3月末日時点)

利用登録者数 : 95名(平成28年度比: -2名)

1. 利用登録者状況

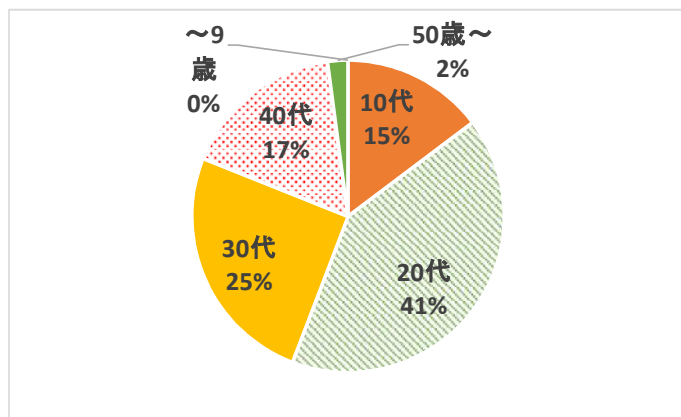
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	62	33



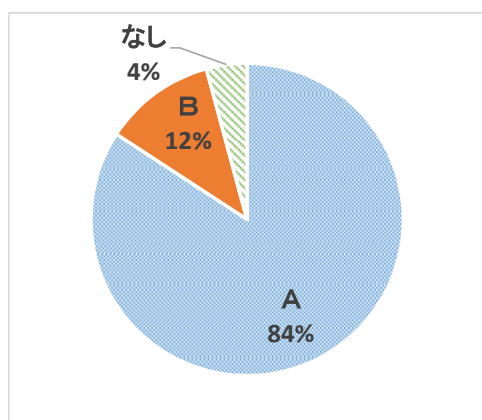
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	14	39	24	16	2



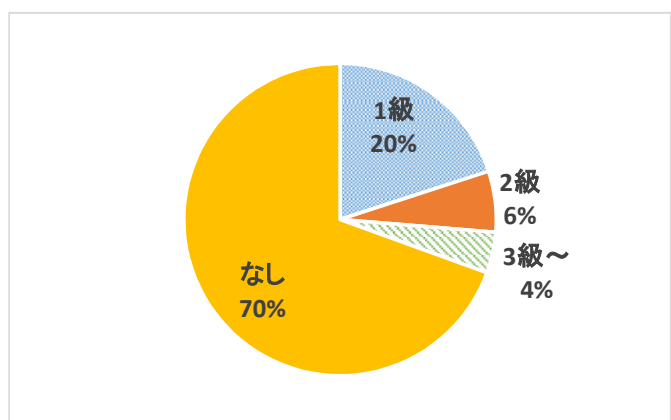
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	80	11	4



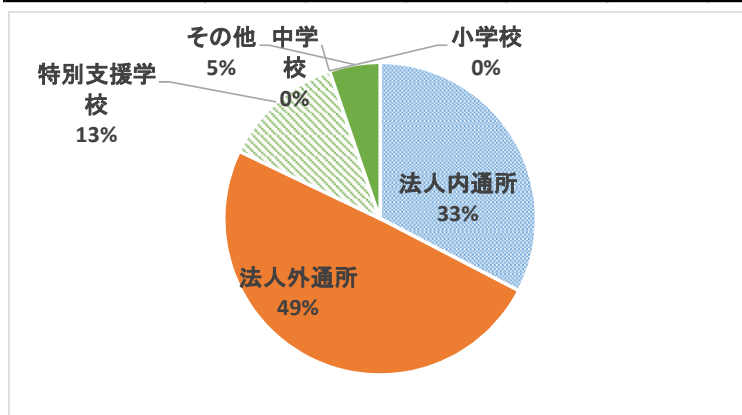
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	19	6	4	66



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	31	47	12	0	0	5



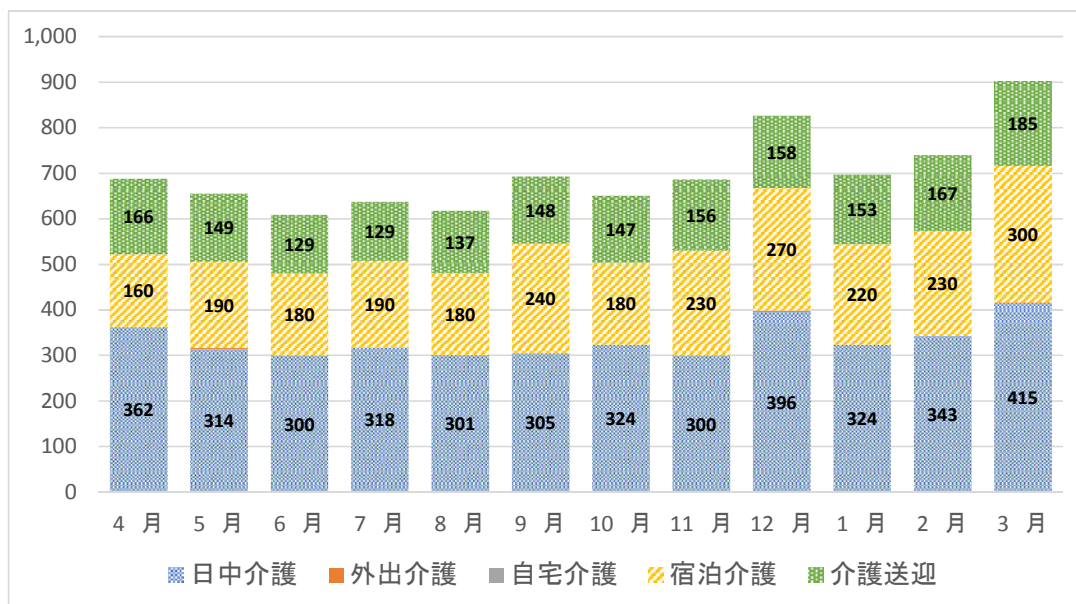
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	362	0	0	160	166	688
5 月	314	2	0	190	149	655
6 月	300	0	0	180	129	609
7 月	318	0	0	190	129	637
8 月	301	0	0	180	137	618
9 月	305	0	0	240	148	693
10 月	324	0	0	180	147	651
11 月	300	0	0	230	156	686
12 月	396	2	0	270	158	826
1 月	324	0	0	220	153	697
2 月	343	0	0	230	167	740
3 月	415	2	0	300	185	902
合 計	4,002	6	0	2,570	1,824	8,402

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間



■ だいち 事業実績

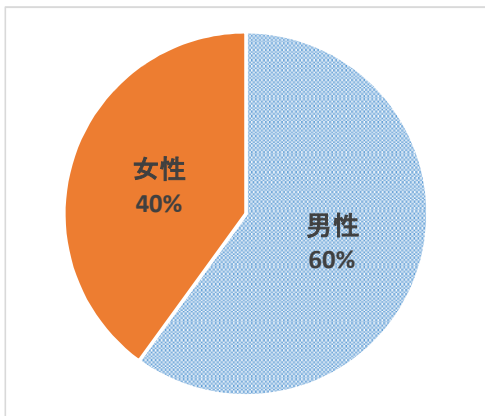
(平成30年3月末日時点)

利用登録者数 : 95名(平成28年度比: +1名)

1. 利用登録者状況

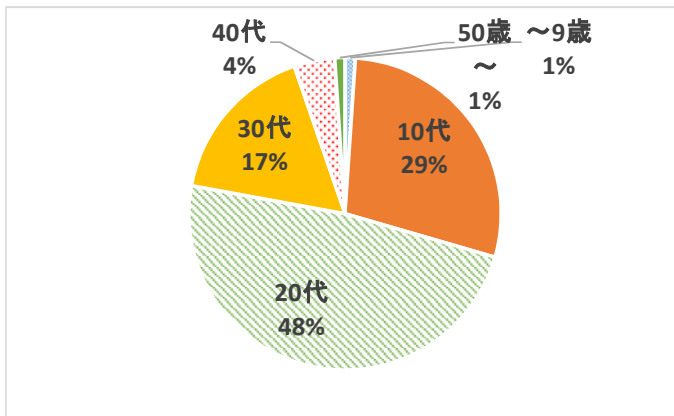
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	57	38



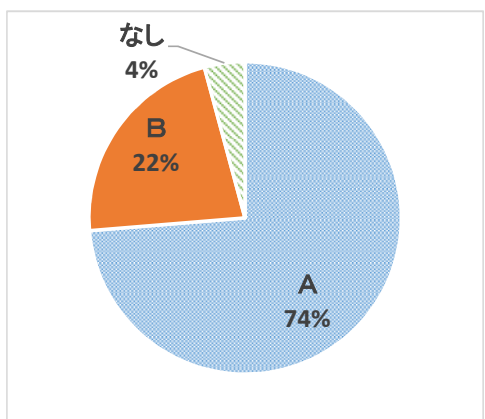
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	27	46	16	4	1



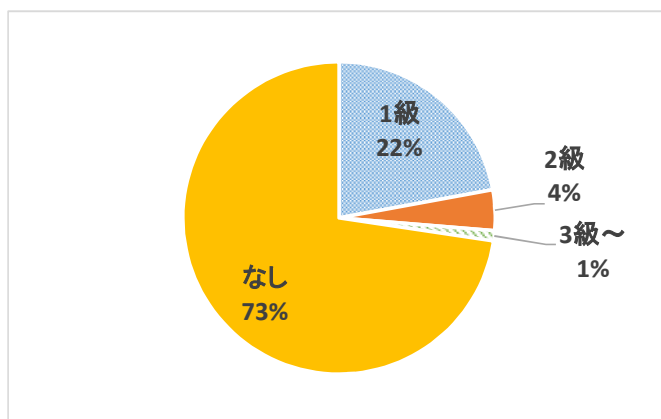
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	70	21	4



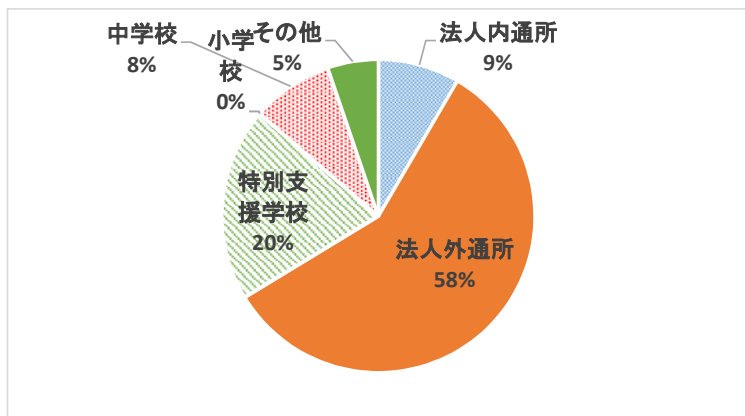
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	21	4	1	69



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	8	55	19	0	8	5



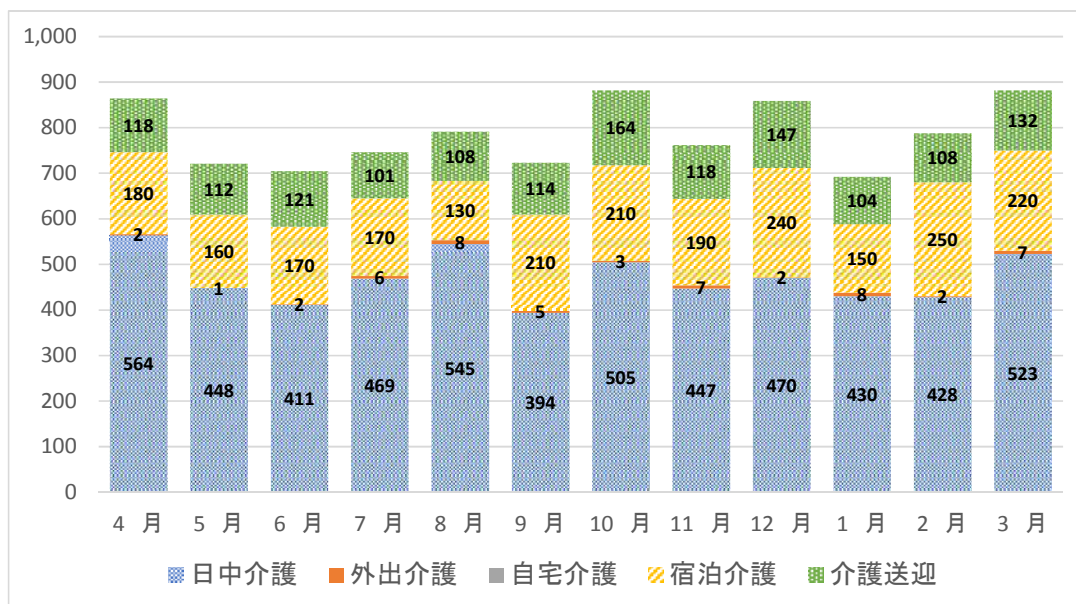
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	564	2	0	180	118	864
5 月	448	1	0	160	112	721
6 月	411	2	0	170	121	704
7 月	469	6	0	170	101	746
8 月	545	8	0	130	108	791
9 月	394	5	0	210	114	723
10 月	505	3	0	210	164	882
11 月	447	7	0	190	118	762
12 月	470	2	0	240	147	859
1 月	430	8	0	150	104	692
2 月	428	2	0	250	108	788
3 月	523	7	0	220	132	882
合 計	5,634	53	0	2,280	1,447	9,414

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間



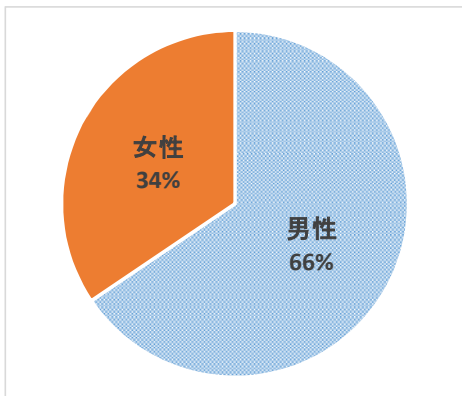
利用登録者数 : 90名(平成28年度比: -4 名)

H27/96名 H28/94名

1. 利用登録者状況

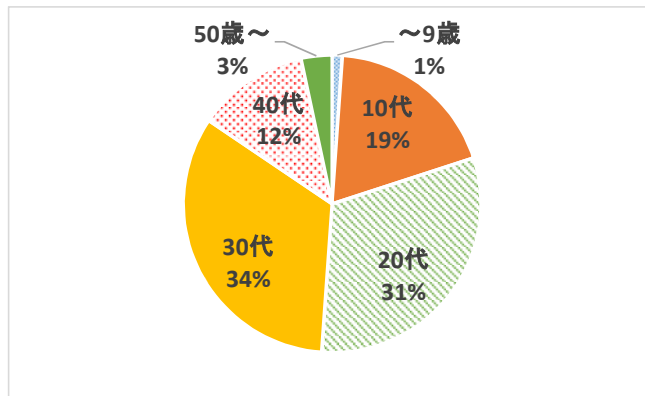
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	59	31



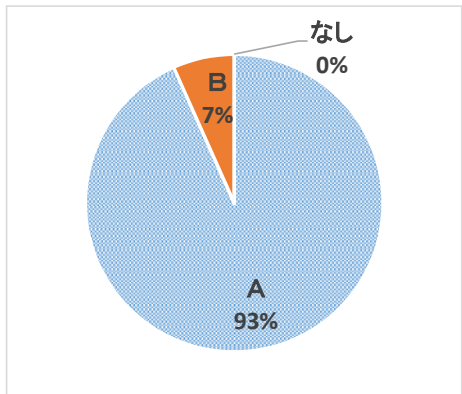
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	17	28	30	11	3



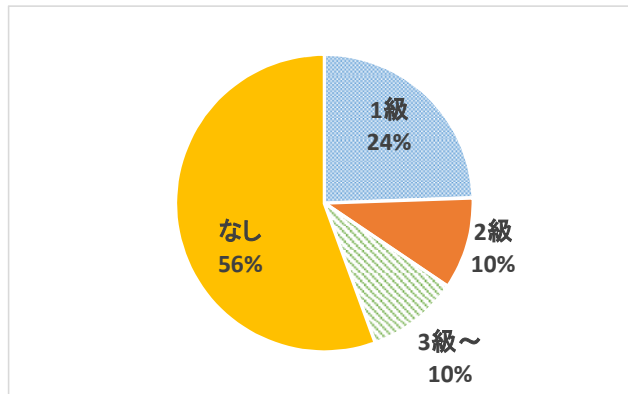
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	84	6	0



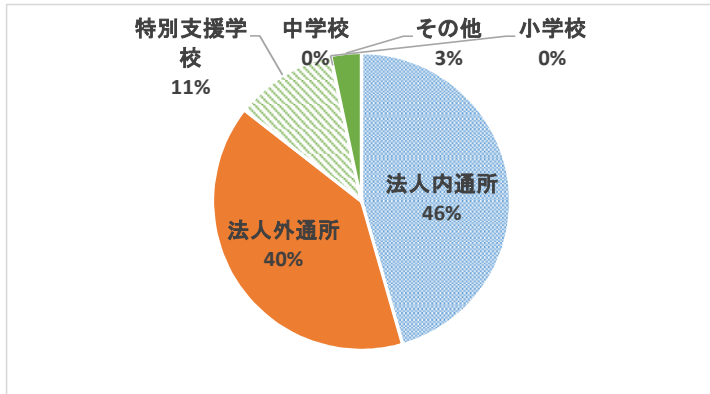
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	22	9	9	50



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	41	36	10	0	0	3



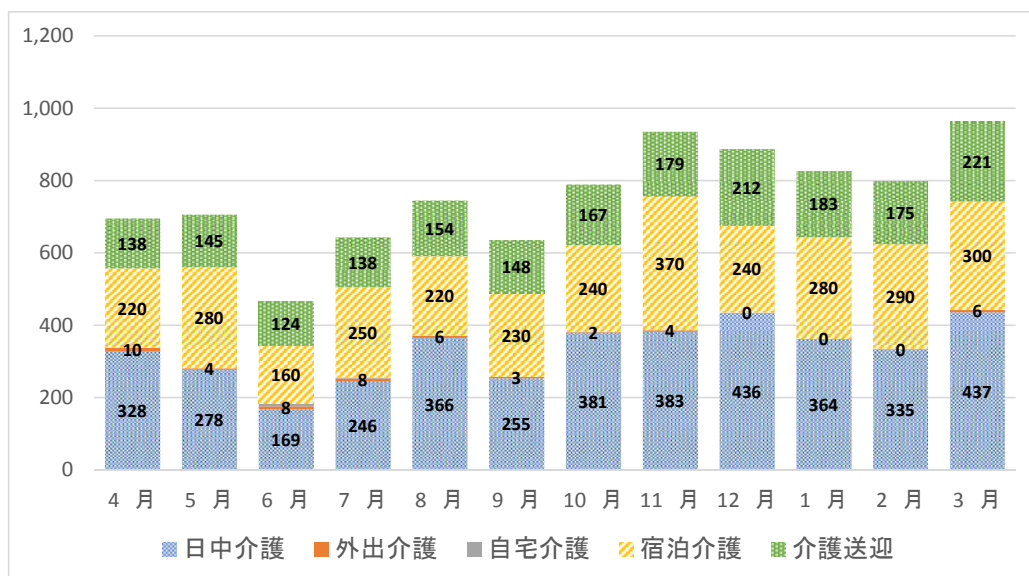
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	328	10	0	220	138	696
5 月	278	4	0	280	145	707
6 月	169	8	7	160	124	468
7 月	246	8	2	250	138	644
8 月	366	6	0	220	154	746
9 月	255	3	0	230	148	636
10 月	381	2	0	240	167	790
11 月	383	4	0	370	179	936
12 月	436	0	0	240	212	888
1 月	364	0	0	280	183	827
2 月	335	0	0	290	175	800
3 月	437	6	0	300	221	964
合 計	3,978	51	9	3,080	1,984	9,102

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間



■ 福祉有償運送 事業実績

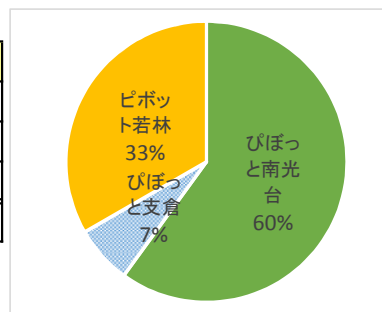
(平成30年3月末日時点)

1. 利用登録者状況

【総数】

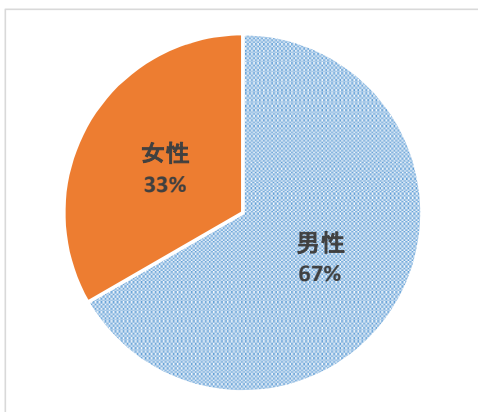
実施事業所名	平成29年度	平成28年度	前年度比
びぼっと南光台	9	18	△ 9
びぼっと支倉	1	4	△ 3
ピボット若林	5	11	△ 6
合 計	15	33	△ 18

※P若林、P支倉は平成29年9月末日をもって事業終了



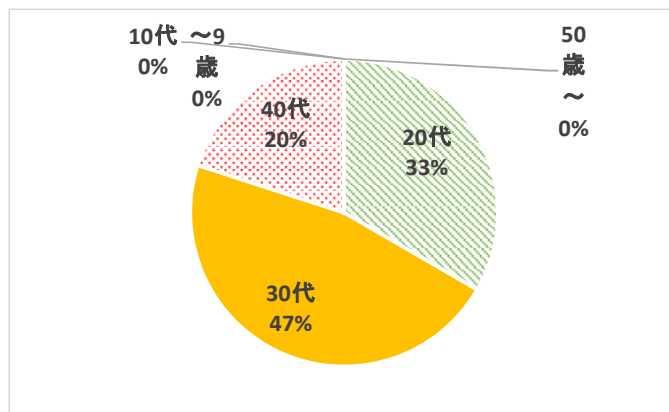
【性別】

事業所名	男性	女性
びぼっと南光台	7	2
びぼっと支倉	0	1
ピボット若林	3	2
合 計	10	5



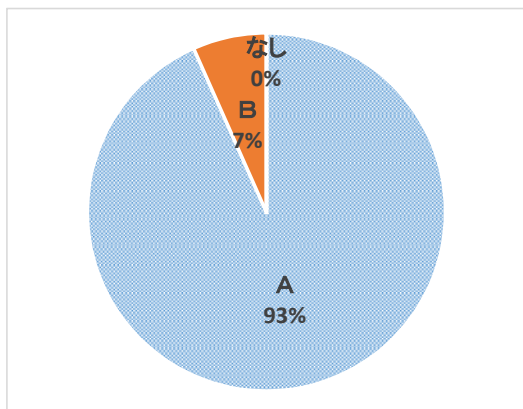
【年齢別】

事業所名	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
びぼっと南光台	0	0	3	4	2	0
びぼっと支倉	0	0	1	0	0	0
ピボット若林	0	0	1	3	1	0
合 計	0	0	5	7	3	0



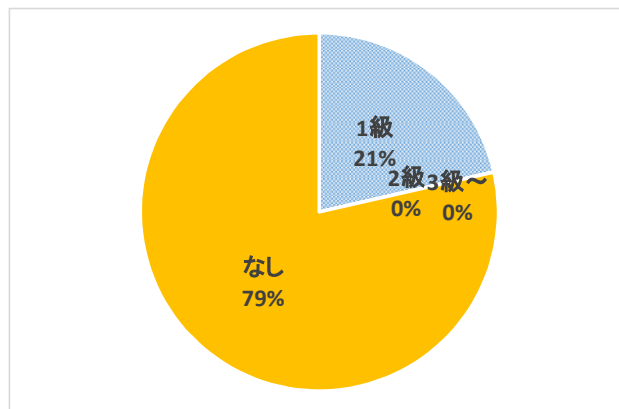
【療育手帳】

事業所名	A	B	なし
びぼっと南光台	8	1	0
びぼっと支倉	1	0	0
ピボット若林	5	0	0
合 計	14	1	0



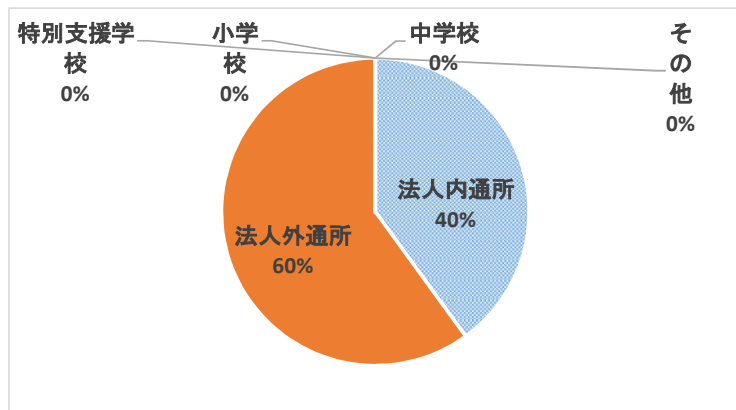
【身障手帳】

事業所名	1級	2級	3級～	なし
びぼっと南光台	0	0	0	9
びぼっと支倉	0	0	0	0
ピボット若林	3	0	0	2
合 計	3	0	0	11



【在 籍】

事業所名	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
びぼっと南光台	3	6	0	0	0	0
びぼっと支倉	0	1	0	0	0	0
ピボット若林	3	2	0	0	0	0
合 計	6	9	0	0	0	0

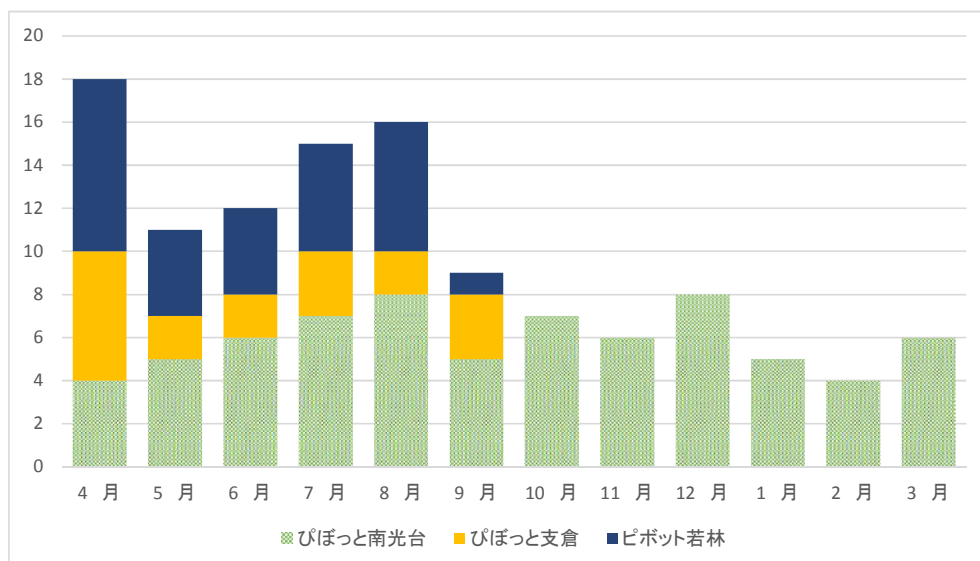


2. 利用状況

【月別運行回数】

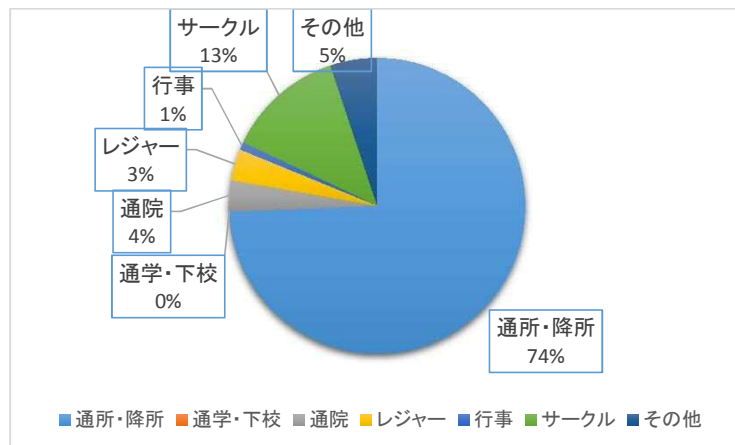
(単位:回)

	びぼっと南光台	びぼっと支倉	ピボット若林	月合計
4 月	4	6	8	18
5 月	5	2	4	11
6 月	6	2	4	12
7 月	7	3	5	15
8 月	8	2	6	16
9 月	5	3	1	9
10 月	7			7
11 月	6			6
12 月	8			8
1 月	5			5
2 月	4			4
3 月	6			6
合 計	71	18	28	117



【利用目的別】

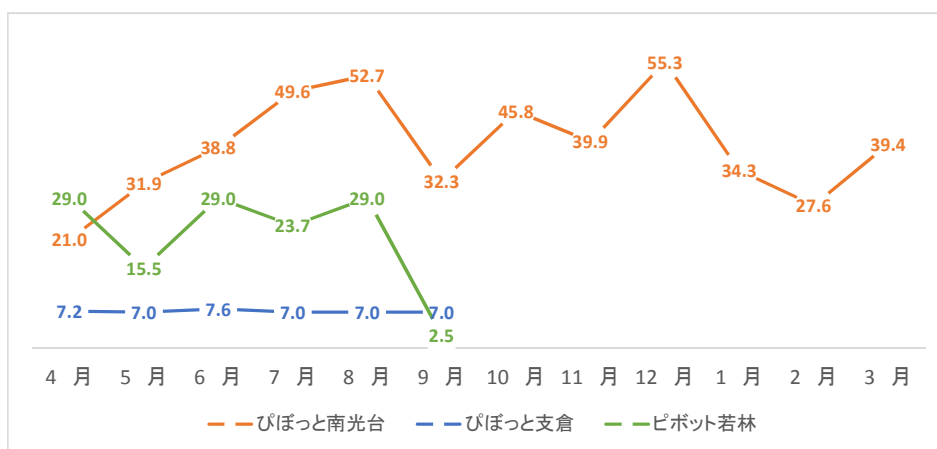
事業所名	通所・降所	通学・下校	通院	レジャー	行事	サークル	その他
びぼっと南光台	45	0	4	0	1	15	6
びぼっと支倉	18	0	0	0	0	0	0
ピボット若林	24	0	0	4	0	0	0
合 計	87	0	4	4	1	15	6



【事業所別 移送距離】

(単位:km)

	びぼっと南光台	びぼっと支倉	ピボット若林	月合計
4 月	21.0	7.2	29.0	57.2
5 月	31.9	7.0	15.5	54.4
6 月	38.8	7.6	29.0	75.4
7 月	49.6	7.0	23.7	80.3
8 月	52.7	7.0	29.0	88.7
9 月	32.3	7.0	2.5	41.8
10 月	45.8			45.8
11 月	39.9			39.9
12 月	55.3			55.3
1 月	34.3			34.3
2 月	27.6			27.6
3 月	39.4			39.4
合 計	468.6	42.8	128.7	640.1



■ ペンたす 事業実績

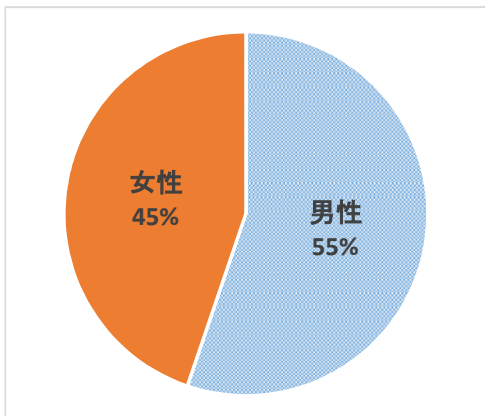
(平成30年3月末日時点)

利用登録者数 : 67名(平成28年度比: +3名)

1. 利用登録者状況

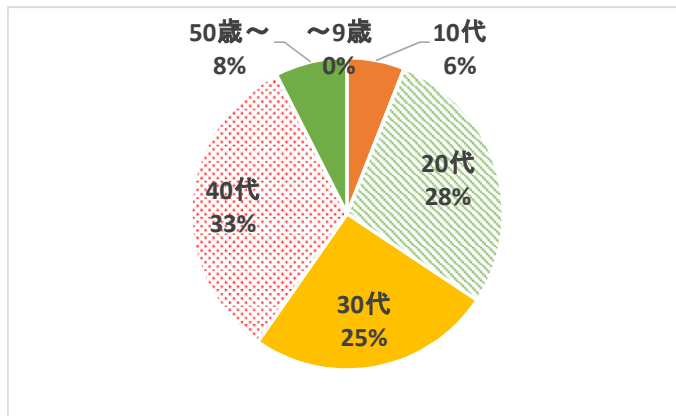
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	37	30



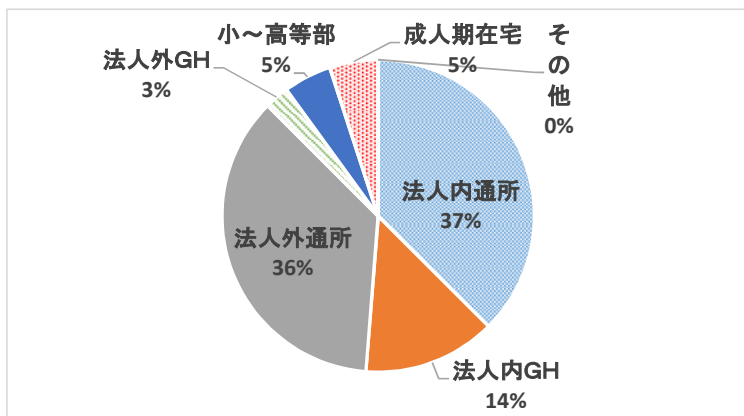
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	4	19	17	22	5



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	30	11	29	2	4	4	0



2. 利用状況

(単位:時間)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
居宅介護	7,110.5	7,964.0	9,129.5
(うち、GH利用数)	4,933.5	5,168.0	6,298.0
重度訪問介護	0.0	0.0	0.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
行動援護	138.0	250.5	256.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
同行援護	43.0	209.5	176.5
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
移動支援	3,492.0	4,180.5	4,244.5
(うち、GH利用数)	805.0	620.0	764.0
合計	10,783.5	12,604.5	13,806.5
(うち、GH利用数)	5,738.5	5,788.0	7,062.0

○備考

- ・登録者数の推移
27年度 59名
28年度 64名
29年度 67名

■ ぴぽっと 事業実績

(平成30年3月末日時点)

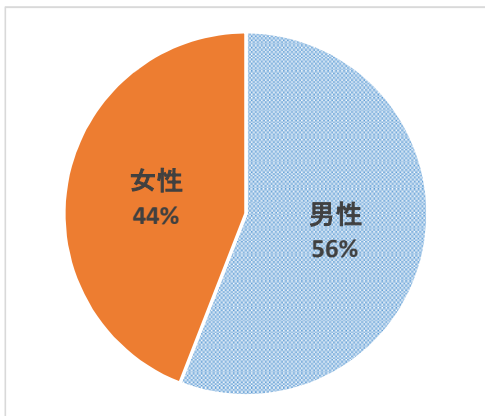
利用登録者数 :93 名(平成28年度比:-5名)

H27/101名 H28/98名

1. 利用登録者状況

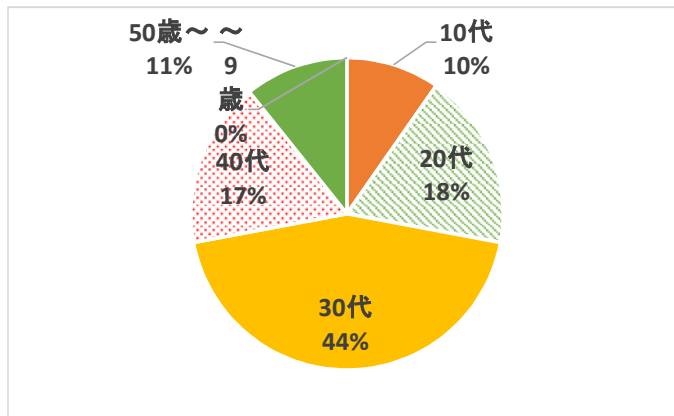
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	52	41



【年齢別】

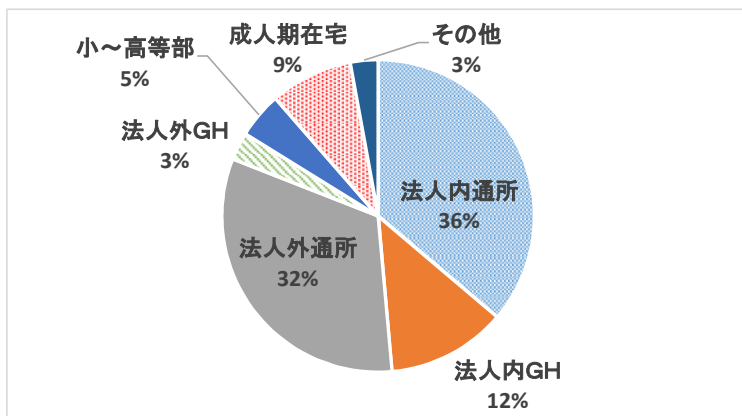
利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	9	17	41	16	10



【在籍】

※法人内外のグループホーム入居の方も含む。

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	38	13	34	3	5	9	3



2. 利用状況

(単位:時間)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
居宅介護	11,785.0	8,348.8	7,546.5	※徐々にべんたす移行
(うち、GH利用数)	3,575.0	4,017.0	4,152.5	
重度訪問介護	1,347.0	1,267.5	1,380.5	
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0	
行動援護	134.0	0.0	0.0	
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0	
同行援護	330.5	291.5	368.0	
(うち、GH利用数)	330.5	291.5	318.0	
移動支援	11,603.0	10,685.5	9,719.5	※移行有
(うち、GH利用数)	1,025.5	952.5	1,222.0	
合計	25,199.5	20,593.3	19,014.5	
(うち、GH利用数)	4,931.0	5,261.0	5,692.5	

■ 障害者相談支援事業所「くれよん」 事業実績

実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家								
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ピボット若林 障害者相談支援事業所 くれよん								
	住 所	若林区遠見塚2－16－15 ピボット若林内								
対象		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者		52	8	2	35	12	6	1	3	2
障害児		19	4	1	12	0	5	0	2	0
計		71	12	3	47	12	11	1	5	2
支 援 方 法										
方法分類		訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数		108	28	56	307	33	55	391	0	978
支 援 内 容										
内容分類		①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係		⑦家計・経済	
延件数		665	116	225	149	37	184		70	
ピアカウンセラー（再掲）		0	0	0	0	0	0		0	
内容分類		⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他			合計	
延件数		260	118	156	10	35			2025	
ピアカウンセラー（再掲）		0	0	0	0	0			0	

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	7	9	11	9	12	7	7	11	8	11	7	4	103.0
療育技術指導事業	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	5.0
計	7	10	12	9	12	7	8	11	9	12	7	4	108.0

平成29年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	10	14	8	12	11	4	7	9	10	13	7	4	109.0	9.1
モニタリング	23	19	20	18	15	14	24	24	14	17	19	14	221.0	18.4
計	33	33	28	30	26	18	31	33	24	30	26	18	330.0	27.5

■ 障害者相談支援事業所「とびら」 事業実績

実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家							
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ぴぽっと支倉 障害者相談支援事業所 とびら							
	住 所	青葉区支倉町2－35 ぴぽっと支倉内							
委託相談支援対象者									
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	109	6	4	73	26	3	0	0	1
障害児	73	4	6	46	4	12	0	1	0
計	182	10	10	119	30	15	0	1	1
支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	245	93	75	470	85	90	834	0	1892
支 援 内 容									
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済		
延件数	975	177	148	101	64	110	115		
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0	0	0		
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他			合計	
延件数	154	92	36	6	60			2038	
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0			0	

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	5	6	4	5	6	6	8	5	7	6	3	4	65.0
療育技術指導事業	1	1	2	0	1	3	2	2	1	2	6	2	23.0
計	6	7	6	5	7	9	10	7	8	8	9	6	88.0

平成29年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	10	25	15	16	14	19	23	20	14	20	17	20	213.0	17.8
モニタリング	41	34	30	36	36	31	31	37	29	33	30	33	401.0	33.4
計	51	59	45	52	50	50	54	57	43	53	47	53	614.0	51.2

■ 障害者相談支援事業所「ゆあらいふ」 事業実績

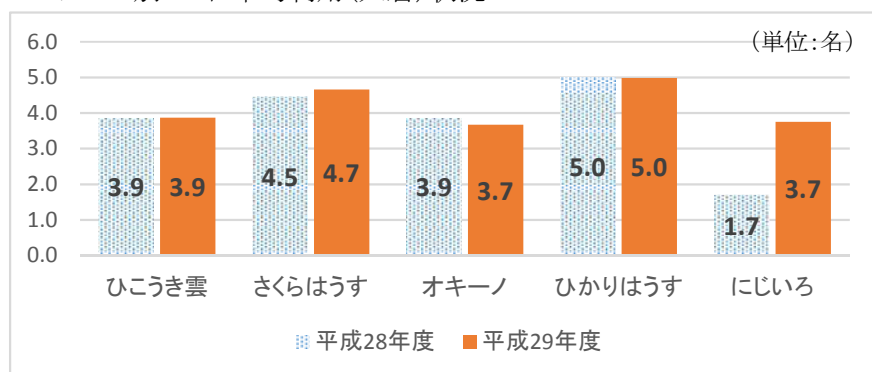
実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家												
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ぴぽっと南光台 指定障害者相談支援事業所 ゆあらいふ												
	住 所	泉区南光台3-1-24 ぴぽっと南光台内												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	4	0	4	0	13	7	4	7	8	3	8	5	63.0	5.3
モニタリング	14	3	9	9	17	8	6	7	10	10	11	13	117.0	9.8
計	18	3	13	9	30	15	10	14	18	13	19	18	180.0	15.0

3 居住支援部門 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H29年度利用実績(人)	627	659	635	656	648	631	3,856
ひこうき雲	118	119	119	122	122	116	716
さくらはうす	140	145	140	145	143	140	853
オキーノ	110	114	110	114	113	111	672
ひかりはうす	150	154	150	155	155	150	914
にじいろ	109	127	116	120	115	114	701
H28年度利用実績(人)	518	543	519	539	545	525	3,189
ひこうき雲	114	123	105	116	120	118	696
さくらはうす	134	141	142	144	146	136	843
オキーノ	120	124	122	124	124	122	736
ひかりはうす	150	155	150	155	155	149	914
にじいろ	0	0	0	0	0	0	0
前年度実績比較(人)	109	116	116	117	103	106	667
ひこうき雲	4	△ 4	14	6	2	△ 2	20
さくらはうす	6	4	△ 2	1	△ 3	4	10
オキーノ	△ 10	△ 10	△ 12	△ 10	△ 11	△ 11	△ 64
ひかりはうす	0	△ 1	0	0	0	1	0
にじいろ	109	127	116	120	115	114	701

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合計
H29年度利用実績(人)	650	632	634	629	599	659	638.3	7,659
ひこうき雲	121	116	112	118	110	122	117.9	1,415
さくらはうす	145	143	143	143	132	146	142.1	1,705
オキーノ	116	112	113	111	104	115	111.9	1,343
ひかりはうす	155	150	155	155	140	155	152.0	1,824
にじいろ	113	111	111	102	113	121	114.3	1,372
H28年度利用実績(人)	627	612	609	616	578	647	573.2	6,878
ひこうき雲	123	118	121	116	110	122	117.2	1,406
さくらはうす	138	128	125	125	125	142	135.5	1,626
オキーノ	114	116	113	113	104	112	117.3	1,408
ひかりはうす	155	149	151	155	139	154	151.4	1,817
にじいろ	97	101	99	107	100	117	51.8	621
前年度実績比較(人)	23	20	25	13	21	12	65.1	781
ひこうき雲	△ 2	△ 2	△ 9	2	0	0	0.8	9
さくらはうす	7	15	18	18	7	4	6.6	79
オキーノ	2	△ 4	0	△ 2	0	3	△ 5.4	△ 65
ひかりはうす	0	1	4	0	1	1	0.6	7
にじいろ	16	10	12	△ 5	13	4	62.6	751

■ ホーム別 1日平均利用(入居)状況



(参考) 利用定員

ひこうき雲 : 4名
 さくらはうす : 5名
 オキーノ : 4名
 ひかりはうす : 5名
 にじいろ : 6名

5 補助金等収入内訳

N o	名称	分類	補助目的	金額 (円)	受入先 (部門名)
1	仙台市重症心身障害生活介護事業費補助金	行政	事業運営費	12,292,450	日中活動支援
2	特定雇用開発助成金	行政	職員加配	700,000	日中活動支援
3	仙台市要医療的ケア利用者受入事業運営費補助金	行政	職員加配	3,158,000	日中活動支援
4	仙台市障害者家族支援等推進事業補助金	行政	事業運営費	47,016,600	地域生活支援
5	同(医療レスパイト)	行政	事業運営費	198,700	地域生活支援
6	仙台市移動支援事業補助金	行政	事業運営費	32,684,739	地域生活支援
7	障害者雇用助成金	行政	事業運営費	162,000	その他
8	仙台市重度重複障害者等受入通所施設等運営費補助金	行政	職員加配	29,306,000	日中活動支援
9	仙台市民間社会福祉施設運営費補助金	行政	利子補給	47,040	日中活動支援
10	社会福祉法人 清水基金	民間	施設整備	7,200,000	日中活動支援
11	公益財団法人 森村豊明会	民間	施設整備	300,000	日中活動支援
12	仙台市障害福祉サービス事業所等消防設備整備費助成金	行政	施設整備	291,000	地域生活支援
(合 計)				133,356,529	